



明治廿五年  
總選舉之記

牙利

民政堂  
佐賀縣支那評議員

情  
野  
不  
心



松 988.9

明治二十五年、総選挙。國民、志ル可カノ者ハ  
コトナルニ先輩其記ヲ作ラズ鹿島ノ永田氏作氏セシ  
ト、注意アリシモ其記ヲ作ラシタルニ遺憾ナリト藤  
津ノ人士ニ言ヘリ予ハ漢字不才且ツ無礼ヲ顧  
慮セズ其ノ記ヲ作シ選挙當時予ハ年數二十五  
歳投票權ヲ有セズ一個ノ書生トシ只當時ノ記憶  
ヲ叙スルニ而各位ノ時季考ニ供ス

序

余進歩党ヨリ憲政會、民政黨時代ニ至ルマテ黨員各位ノ驍  
尾ニ就テ指導ヲ受ケ何等勲績ナシトシ此ノ書ヲ作リ記念トシテ之  
ヲ呈ス

顧ミレハ 神武天皇紀元元年正月元日大和ノ橿原ノ宮ニ  
即位アラセラルレ銚ヒテヨリ六百身間我祖前國ニ中央政府ト表  
カリ皇沢浴カラス漢トシテ詔入可キモノナシ崇神天皇ノ時代ニ至  
リ地方官ノ任命アリシモ懿懿、餘教横行シテ生民塗炭ニ墜レ公是  
ニ於テ果行天皇、神功皇后ノ西征トナリ生民始メ皇澤ニ浴ス降テ  
齊木朝藤原氏ヨリ海平ノ時代トナリ北条足利織田豊臣徳



川ノ時代トナリ明治維新トナリ 後醍醐天皇王政復古ノ偉業ヲ  
決意盡アセラレテヨリ五百五十年ニ至リ明治天皇ノ時代  
ニ至リ維新ノ業ヲナリテ郡縣ノ制ヲ布カレ立憲政体トナリ  
皇室中心主義ノ下ニ天子政ノ権ヲ興エラレ皇恩ノ宏大ナ  
ル誠ニ恐懼感泣ス可キナリ

余輩ハ明治四年ニ於テ大拾分石五斗ノ家禄ヲ奉還シ一石四斗七升  
ノ計兼ニテ公債証書ヲ授養資金トシテ交付ヲ受ケ且ルニ明治十二年  
長崎縣令ト山林境界事件ニテ訴訟ヲ為シ多額ノ借財ヲ生シ勉強  
スルノ資金ナシ為メニ東京方面ニ遊學スルノ資金ナク小成ニ  
至ンシテリ議員タルヲ望ンカ學力ナク運動費ナシ官費タルヲ

望ンテ性格官又ニ適セズ是ニ於テ我國ノ歴史ヲ研究シ英  
雄豪傑ノ言行ヲ天下ニ奏表シ世道人心ニ裨益スルヲ天賦ナ  
リト感シ故國古代史ヲ明治時代ニ至ル歴史ヲ研究スルコト殆  
ン二十年漸ニシテ大要ヲ調査シ已ニ佐賀ノ関ルコトハ肥前史談會  
於テ奏表シ大村ニ関ルコトハ已ニ二冊ノ本ヲ作成シテ大村人士ニ送リ嬉野  
土史ニ材料ヲ交付シ近來ハ大村其他學校先生ノ訪問又ニ書翰ニテ  
史蹟ノ問合ヲ受ケルコト頻々タリ試ニ東京ニ上ラレ守先ノ太宰  
府ノ史蹟水城箱崎余種多ク濱合戦川司ノ帆柱城ノ合戦檀浦  
ノ海平合戦征長合戦宮島談判廣島ノ山陽先生ノ遺跡姫路  
城赤石福原郡一谷合戦港川合戦大坂城京都ノ由來山崎



白旗國々守令戰、富士川合戰、富士巻籠、奈良朝、金剛山、去野朝、  
望雲山、伊勢大廟、學名合戰、名古屋城、鎮倉、幕府、江戶城、  
等至、江戶中、託胎セズナシ、昭和二年小濱ニ赴キ、青年會ニ島原  
中學校教諭ノ講演アル事アリ、予小濱所長ニ請フニ、島原幸島  
ニ於テハ英雄豪傑ノ言即ニ我々ノ題ニテ、島原幸島ニ於ケル中世以降ノ  
事ヲ講演シ、島原人ナラシテ他郷人ニシテ何故耶々島原ノ事ヲ講シキヤ  
ト大ニ勸待ヲ受ケ、予ハ全國ノ史蹟ヲ取調メ、之ヲ公表スルカニ天職ナリ  
ト答ヘタリ、然レニ調査シタル十分ノ一ヲモ發表セザルニ、昭和四年二月ヨリ心腕  
心経痛ニテ歩行スル能ハズ、實ニ生死ノ境ニアリ、遺恨ハルハ所ナリ、其  
氏天職トシテ取調メ、此ノ本ヲ呈ス、各位又レ之ヲ諒セヨ

明治廿五年総選挙記ノ概

西松浦郡投票函送ノ状況

西松浦郡伊方里教員、茶田、菅下ノ投票  
函ヲ、東松浦郡役所ニ送付スルニ付テハ、選挙部  
巡查ノ外、立十人ノ仕士ヲ付シタリ、仕士ニ白  
鉢巻ニ、夕ヌキヲ懸ケ、ワラケヲハヒテ、日本刀  
ヲ腰ニ帯ヒ、先頭ニ、指導トシ、後右次ニ二人  
並ニシテ、拾汰列後、伊方里、茶田、菅下、長松  
貝、安次郎、其次ニ、役員ノ投票函、其次ニ、  
獲術巡查、是等ハ皆人力車ニ乗リリ、其後



備出書ハ次ニ應援警部小幡信義其攻  
 白鉢巻ヲスキ器ノ徒オナト士廿五人  
 兵千二人並ノ十二人其數トシテ一人ノ仕士  
 並警者トシテ其行列殆シトニ丁ニ波シ

仕士

先頭

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

長	長	長	長	長	長	長	長
長	長	長	長	長	長	長	長
長	長	長	長	長	長	長	長
長	長	長	長	長	長	長	長
長	長	長	長	長	長	長	長
長	長	長	長	長	長	長	長
長	長	長	長	長	長	長	長
長	長	長	長	長	長	長	長
長	長	長	長	長	長	長	長

投票函ニ二月十六日午前八時伊予守府  
 村ヲ廻リ午前十二時大川村ニ達シ警部  
 並書ニ右ノ西側ノ士布局ニテ晝食仕士モ

近江ノ旅者ニテ食事ス

應援警部小幡信義並書ニ謂テ曰ク  
 予ハ是近警部ヲ退藏セシカニ三日前後  
 殆チ予カ佐助ヨリ武蔵ニ帰シ時鐘ヶ江  
 正明ノ大侍トシ少田ト四石ヲ襲テノ討書  
 アリト聞キシガ妙河ナリトヤ其後ノ事分  
 ラス

又此度位鏡台兵ノ出書ト仲ノ善キ事

ハナシト申聞カセタリ

晝食終テ元ノ行列ニテ虎津ニ赴ク



選定弄後ノ状態

一有田分置管母ハ民吏ノ相成定之ヲ  
勢力地ナシツ以テ一同也生願也  
断ハリタシバ也查ハ既在也  
學子等ノ定之ヨリ日也出キタリ  
一官中見民吏ノ感情益々甚シク及對  
定ト婚姻セム婦人ト是氏等講ノ會  
合ヲ一ニセス官中見ハ官中見等講ノ會  
ハ民吏等講組トテ情端絶交同極  
ニシテ各等講組ノ成立セリ殊ニ橋村

鳴謝ハ表示ニ赤民吏里民吏トテ反  
對表示ノ看板ヲ表示シタリ

一茲ニ長崎縣東部後村郡江上村ニ年  
二十歳ノ婦人又家ニ婚嫁シテヨリ一々年  
婚家ト實家トハ定派違ナルヨリ其婦  
人婚家ニ申去ラハ曰ク縁アリテ此ノ家ニ  
参リシモ今ヤ定派違ニテ甚ク柔ノ毒ニ  
感ス宜シク諒解アリテ暇ヲ下度シト相  
談シ實家ニ戻リタリ  
此ノ事新聞ニ出テ婦人ノ義ノ強キヲ  
世々ヤルシキナリ  
一小作田地ノ引揚賃金ノ催促等其誤



雜筆紙ノ裏シレ難シ

選奉後ノ議會ノ状況

選奉干渉ニ付テ、陸奥宗光ハ反對ヲ唱  
ヘタリ此度ノ政府ノ遣口余リニ非立憲ニシテ  
右憲ニ列シテ面自ラント流石ニ新知識ニ當ル  
丈リ大ク品川ノ藝術ヲ憎ミ事アリ又閣員外、  
元老遠ニ政府ヲ指苦道ヲ邪難スル者多ク  
樞密院議長長タル伊藤博文初ヨリ干渉ヲ  
不可ナリトシテ憲法セシテ聽カカシテ斯ルニ結果ト  
ナリシヨ見テ大ニ其ノ不法ヲ詭リ此ノ如キ閣員

ト但スルリ欲セズト言ヒ表リ奉リテ 樞密院議長

ヲ辭セシトシテ井上馨西鄉從道 大山巖、

諸元老之ハ容易クスト各派ニシテ 聖上ノ良轉ヲ賜リ

伊藤ヲ引留メ一方松方ニ談シテ品川新次郎ノ更

官ニ樞密院副議長制為種臣ヲ代ワテ内務大臣

ニ任ゼシメ農商務大臣陸奥宗光又辭表ヲ呈シ

タレハ河野敏謙ヲ其ノ後任トシ此際全國民ノ怒リ

ヲ外ニ轉スルノ策ヲ取リ又ニ條約改正州縣ヲ持

出シテ榎本武揚ヲ直接其ノ任ニ當ラシメ青木周  
造後藤森兩家ニ即 西鄉從道ヲ其人ヲ改正奉ル



ニ任じ又而シテ新ニ内務大臣トナシレハ別島ハ其ノ  
不備不慮ノ主義ヲ公言シテ官民、調和ヲ計リ以テ前  
任西川彌太郎、暴政ヲ償ハシテ苦心シ民黨ノ首領  
タル大隈、板垣ト会見シテ選挙ニ干渉せん各縣知事ヲ  
処分スヘキカ故ニ民黨ニ於テモ亦選挙ニ互ニ共同ニ致  
國政ヲ議セシタリト約セシ彼、品川ヲ助ケテ干渉ヲ行ヒル  
内務次官白根專一ハ是ヲ聞クテ以テ、外ナリト憤リ中央  
政府ニ命令ヲ奉セシ存ニ却ツテ処分ヲ度クル如キ事アルニ於  
テハ余身又決心ヲスル処アラント言ヒ各縣知事、部長モ又  
続々トシテ上京シ白根ヲ助ケテ副島内務大臣ニ反列シケル

樺山、高島、ニ大臣ニ之ヲ助ケテ副島ニ味方ス後、河  
野、ニ大臣ト睨ミ合フ事トナリ内閣、兩派ニ分テ衝動ヲ  
免シザル形勢ニナリシカ其、中期日迫リ三十五年五月二日第  
多議会ヲ召集シ解散後、閣会故会期ヲ四十日ト定メ  
其、九日松方總理、衆議員、臨ミテ施政ノ方針ヲ  
演説シ予算算其他ニ於テ政府ノ不法ヲ彈劾スルノ上  
奏案ヲ提出セリ此、日、衆議員ハ傍聽人、屋敷  
ノ如ク閉會時刻ニ先チ已ニ満員トナリシカ午後一時ニ  
至リ振鈴、音聞合テ告グレバ第一番ニ栗谷議ヲ入  
場シテ其、議席ニ着キ次テ河島醇、巨大ノ体軀



ヨソソリくとト大手ヲ拵テ入り来リ是より議事一用  
ドヤくと入り来リ忽チ満場空席ヲナク階上傍聴者  
ハ鳴リツ沈メラ見詰ムル所ヲ議長ハ宣言シテ  
只今ヨリ選舉干渉議案ニ就キ開議スベシト報  
ジ書記官ハ~~所稱~~廣中身八名ヨリ提出セル彈劾上奏案  
ヲ朗読スル其音朗々トシ堂内ニ響キ渡リ恰モ四方  
國民ハ肺腑ヲ衝クテ出スル如ク議長席、後控へシ  
政府各大臣、胸裏ニハ敵軍突貫ノ叫ビトヤ響キ又ニ  
衆目等ニシテ大臣席ニ注ゲル松方總理ノ椅子ニ正座  
シテ少シク頭ヲ左右ニ傾ケ次ギん大木大臣ハ行儀

要一トク前方ノ卓上ニ倚リカ、リ榎本大臣ハ平然トシテ  
反身ニ構へ副島大臣ハ手ヲ膝ニ組ミ合セラ謹嚴ニ  
目差シニ前方ヲ正視シ又一方、松方首相ヲ占メタル様大  
臣ハズボン隠シ、手ヲ垂入シテ兀然ト着席シ田中大臣  
ハ其ノ次ニ少シク腰ヲ屈メテ殿様然ト控へ後藤大臣  
ハ其ノ次席ニアリテ前方ヲ覗ミ河野大臣ハ其ノ次ニ手ヲ  
拵スルテ正座シ是ヨリ左右ニ各次官一同並居ル様  
扱テ物々シヤ此時忽チ一個~~儀~~變動ノ傳文夫  
議長席直向ウヲ闊テ排テ入り徐々ニ階段ヲ居テ来  
ルヲ見ル當日ノ大建物タル河野廣中ニテ進ニテ



其席ニ着クテ誠長席下ノ辺ニ座ヲ占メ居ル島田  
三郎ハ立テ河野、席ニ至リ自由座、領袖が改  
進黨、雄將トテ時黙シ語スニ体ノ只ナラ又氣色ニ衆皆  
汗ヲ握ル西雄相頷キテ別シ島田三郎自席ニ復ス  
ルト見ルヤ短髪友精悍、小漢政進黨、飛將犬養毅  
ハ島田、席ニ着イテ向尋カ打合スル模探將ニ見  
ルバ我黨徒精龍蛇虎豹隱現出沒、機迫ル  
此、刹那河野座中ニ堂々タル巨体ヲ演壇ニ進メ昂  
然一揖シテ徐ニ口ヲ開キ明朗爽速莊嚴銳利重備  
ヘタル辨舌ト眞摯熱實ナル精神トヲ以テ

一依一日中、語法自然、巧ヲ假来ニテ政府、選考  
干渉ニ固スル彈劾上奏案ヲ提出、理由ヲ説キ結果  
一政體ヲ高メテ云フハ斯ク如ク和氣靄然ノ裏ニ於テ  
袈布サレタル憲法ヲ廢シ血雨腥風ニ汚シ去リシハ  
果シテ誰ノ罪ゾト論ズルニ至ラテ滿場ノ拍手百雷、如  
ク起ルヲ切カケニ卓上ニ立コフヲ一息ニ飲ミ干シテ悠然  
壇ヲ下ル武者振リテ晴ナリ之ニ次デ島田三郎登壇  
壇ニ奉宣リ推理ニ基ケル辯論或演説ヲナシニ時間  
ニ亘ル快辯奪目、如ク鉄蹄從權、向テ所披靡  
セザルナク要所々々ニ内務大臣ニ親ラ之ニ答辯セラ



レニ事ヲ望ムト抑ハ快刀乱麻ヲ断ル如ク其都度拍  
子満場ヲ擲シ又此演説中松方總理ハ卒然闖  
ク排シテ出タリ次デ大木後藤ニ大臣又去リタルハ何事  
カ重出ノ意哉ヲ疑ラスモト推セシ又是於テ政府  
御用演説員大田育造ハ忠勤ヲ勵ムハ此処ナリトハカ  
リ演壇ニ馳上リシカ重々己ハ主張ヲ述ツベクモアラ  
ズハ唯河野島田ノ言葉尻ヲ押ハ枝葉ヲ抜ヘテ  
唯冷笑嘲弄ノ反駁ヲ加ヘテ以テ演壇ノ誠懇ヲ引下  
ガニト試ミタケレド民黨演説員等ヨリ數々本論ニ入リ  
自説ヲ吐ケト怒喝セウシ趣味一貫セズシテ空シク

一場ノ悪方役ヲ演ジテ退クハ先程ヨリ意氣抑ヘカ  
レバ幾度カ立ツテ歳長ニ連呼居タル立川雲平  
今ウ度ツ我ハ順著ナリト勇ミテ演壇ニ踊上リ先カ  
大聲ヲ大固ノ揚足取リ駈解ヲ駈シ愈々本論ニ入  
リテハ選者前後ノ政存カ干渉暴行ノ實ヲ詳論  
シテ大臣席ヲ尻目ニ掛ケ之ヲ詰責シテ余蘊ナク  
午後三時ニ始マリシ演説六時ニ至ツテ漸ク畢リ又  
其ノ叙説混雜シテ稍ヤ秩序ヲ缺ヤ且ツ余ノ干渉  
ノ事實ヲ述ベ立ツル事多クシテ議場擾マシメタル嫌  
アレトモ各地ノ干渉事實ヲ明細ニ叙ヘ事ヲ閉塞ノ頭



上ニ大鉄槌ヲ加ヘ一般傍聴者官吏貴族自身  
負辱、膽ヲ破リタル勢、火口万丈、紅焰ヲ吐イテ  
一切ヲ焦爛スル、概アリ此時議長宣言シテ曰ク本日  
ノ議題ハ尤モ重要ナル問題ナリ引續キ議事ヲ細統  
スベシト最前ヨリ出沒陰顯面持イト憂容ニゲニ見エ  
タル各大臣ハ此時打揃テ着席シ松方総理ハ忽チ  
議長ヲ呼ンデ發言ヲ請求シテ壇ニ進ムニスツ敵將自  
ラ出馬ナルゾト満場動搖メキ立ツヲ稍ヤ尻目ニカケテ  
松方ヲ稍ヤ氣拙スゲニ書翰用紙ニ認メタル尺余リ  
ノ覚書ヲ卓上ニ披キ聲ヲエ方シ震辰ヘラ出ガハリ

膝ニ簡短ナル演説ヲ始メヤカテ取ツ付ケタル様、  
勵聲ヲ振立テテ本日、彈劾發議者ノ文字ハ是レ  
閣員ヲ誣スルノ甚シキ中モナリト云クニ至ラテ満場ドツ  
閣ノ聲ヲ奉ケテ政案ハ否々、叫ビ百雷、妙落ツルカ  
如シ松方ハ太カ打四度路ニ踏ミ踏堪ラヘテ先中ニ鳥角  
ニ即カ石川縣醫官奉告日ノ状況ヲ評シテ此ノ如キハ  
無政府ナリト放言セシハ内閣大臣ヲ誹毀スルノ甚シキ  
モノナリト云フニ及ニテ民黨議員等ハ一齊ニ否々ト絶叫シ  
中ニモ田中正造ハ巨鐘ノ音ヲ揚ゲテ無政府ニ非ズレテ  
何ツヤト大喝反問セシニ遂ニ急所、痛手ニ松方ハグツ



僅カニ願リミテ御靜聽ヲサイトカキ聲ノテシ隠シテ叫ベ  
ルハ見ハ月モ氣毒ナリシ斯クテ松方演説ハ上奏案ヲ  
石駁スルカナク吾々ノ連袂ニ違ヒテ額ニ答稱ニ窮シ  
イト畧量畧ク壇ヲ退ケルヤ此処ハトハカリ角田且平ハ  
烈シク追撃ニ大カク加ヘテ日ヲ總理大臣ニ于テ事實  
ニ関シテ是關員ノ興リ知ル所ニアラズト辨セシモ現ニ  
聲殺ノ下セ此東京ニ於テ官吏カ于テ友セシ跡見ハ  
如何ト逐一證據ヲ奉ケテ攻立シテ此時後床象ニ印ハ  
松方ニ代フテ演壇ニ立出デ此事ハ我が聞スレハ拙者ハ答稱  
セント例ノ大言壯語ヲ弄キヤトシラレド先年東北ヲ遊説

シテ大同團結ノ激浪ヲ捲起セン大言但ノ面影ハ已ニ消ヘ  
其ノ説ヲ知後ニ徒横自在ニシテ却テ三百代言ノ口吻ニ  
隔リ教々卓ウヲ打フテ厲聲スルニ毎ニ演壇ハ以テ笑嘲  
罵ノ聲ヲ浴セカクノミ代フテ出タル長髪ノ中用議員高梨ハ  
其ノ辨口ニ任セテ民黨ニ當ラントセシモ一貫スル論據ヲ  
立テカネテ人々ハ窮鼠ノ勇カク振ヒテ政党内閣ハ細難カ總  
織スルカトカ式ハ民黨有領ノ經濟ヲ非難シテ刑案ハ  
民政府ヲ彈劾上奏スルト云仲裁可ナルベキ謂レシト云  
脱線モ駭句ヲ並ベテ味方ノ議員ハ些ヤカク拍手ヲ得ル  
ノミ其ノ役者ジミク輕博ク説論ハ民黨ノ罵聲



裏ニ葬リ去ラシ又此内後茶象次郎ヲ封サ間トシテ知ラ  
シタル蟹泡儀貞井上角五郎ノ類リ味方儀貞ノ  
席ヲ廻リ止メキテ耳浴シ手ト眞似ト事ハ企計ニ  
ラシク見エシカ高梨哲四郎降壇スルヤ忽チ討論  
終結ヲ告議セシモ此時疾ク民軍ハ飛將犬養毅  
ハ議長ノ指名ヲ以テ壇上ニ在リ議場騒然トシテ  
吏堂ニ終結ヲ主張シ民堂ニ遣ヒシト絶叫シ  
犬養ハ口ヲ閉クテ隙ヲ辛ニ井上角五郎ハ飽迄議去ニ  
迫リテ終結ヲ促スヲ表然揚ヲ制シテ日ヲ已メテ言  
ヲ許セリ討論終結ノ議ハ成立セザルニ消ユラシト

吏堂果然民堂萬歳ヲ絶叫ガ此ニ於テ犬養ハ短身  
瘦軀ニ溢ルル膽略極鋒ヲ以テ利及、辨ヲ振ヒ内閣  
大臣ガ干渉ノ證據ヲ示ト謂ヘルヲ駁シテ證據ハ答頭人  
最モ良ク是ヲ知ル然モ彼ヲ知ラズト云フ然ラハ其ノ證  
據、現ニ日ハ蓋シ藩閥内閣ガ交連也シ後ニアラント  
柳揄シ又「總理大臣ハ選挙ノ因ニテ政府ハ金銭ヲ  
使ヒシ骨質ハナント疎シタムモ固ヨリ覺アルト云フスヘキ  
筈ナシ」穢算者中ニハ曾テ市用新聞買入費ナルモ  
ヲ見シトナシトテ「十餘載人ノ駁駁キリ如ハ彼ノ干渉事  
實ヲ略叙シ来テ」已ニ斯ノ如キ事實アリ内閣止定



知ラズト板ヶ書メアト清ヲ得トヤト喝破シテ  
壇ヲ下レハ吏黨ノ論數長引クモ政府ノ醜狀ヲ暴露  
セラルレリカヤシ又モ討論終結ヲ促ス事急ナリ  
依テ議長之ヲ起立ニ問ヒ民黨モ今ハ勝敗ヲ天ニ任セテ  
糾纏ニ賛成セシガ此時上奏案ヲ採否ヲ投票スルニ就テ  
吏首兩派、大紛爭アリ吏黨醜名ノ證據ヲ残スラ  
功也シテ無記名投票ヲ極力主張センモ議長ハ決然ト  
シテ曰ク上奏ノ事ハ天下後世ノ注目ヲ値スル事ナリハ  
記名投票ヲ斷行スルト井上角之助、鉄面皮ニ之ニ  
反抗爭論多シトモ甲斐ナカリキ斯クテ投票ト

ナルヤ上奏案不賛成ノ青票ヲ投ズル吏黨連ハ中心  
慥然カ如ク白票ヲ投ズル民黨派員ハ意氣揚々ト  
シテ進ムニ壇上ノ卓上ニハ書記佐田ノ之ヲ愛ケト  
筆ニ投ズ民黨ノ手ヲ揚ゲテ書記官ニ渡シ吏黨ハ  
多ク筆ノ陰又ハ卓ノ後ニ忍ビテ手渡セリ傍聴席ニテハ  
電氣ニ打シタルガ如ク比自々首ヲ伸ハシテ注目ス  
青多シ否白多シトド何トモ眺リ扼シ汗ヲ滲リテ  
結果如何ト困睡ヲ吞ンデ待フ中ニヤカテ計留并終リ  
議長報先ノ聲ハ朗々トシテ四隅隅ニ徹セリ  
白百四十三青百四十六ト白ヲ青ヨリ少キニ票ニシテ



議事干渉、上野実業の、アハハ討死ヲ遂ケルナリ  
蓋此際政府ハ議事場ニ於テ干渉、嘗見ナレド  
公言レシツモ一方ニハ以テ金、錢ヲ撒散ラシメ  
直ニテ味方議員ヲ作りタル比、按要ニ於テ  
三票、多數ヲ得タルナリ、此ニ於テ民衆代議士ハ其ノ  
後直ニ其公同ニ懇心、懇心ヲ聞キ申弔合戦ノ計劃  
ヲクシ、越テ十四日ニハ獨立派員、手ヨリシテ選挙干渉ニ  
関スル一篇、決議案ヲ議事場ニ提出スルコト上決シテ議會  
アリ

### 政府不信任、決議松方内閣遂ニ餓死ス

明治二十三日、議場ハ各議員皆前日大苦戦ノ

滑休ニシテ、平々凡々眼ニ如クナリ、十四日

ニハ風雲只ナク先ニ地價修正案ヲ議了シ、今ヤ

己ニ午後四時、云々時、早急聖急勅議アリト叫ハ

モ、アリ其聲傍聴席、隔延連共時ニハ獨立党ノ

中村孫六己ニ壇上ニ在リ其、金縁眼鏡、口角ノ

鬚、相映シ其中肉中又、体軀ニ不約合ナル雷ノ

如キ大聲聲ヲ張り上げテ曰ク、一昨日ノ上野案否決ハ

唯上野ニ関シテ、否決ニテ政府ハ干渉、事實ハ依然ナリ



已る事安ん以上其ノ責ニ任ズルモノナカル（又カラス其理内  
閑諸大臣ナリト其論鋒極メテ明截竹ノ割ルカ如ク  
一氣直往他ノ骨髓ニ徹シ肺腑ヲ刺シ更ラニ一段ノ雷  
音ヲ振リ立テテ決議案ヲ誘ヒ上げタシハ滿場ノ活氣  
勃ラストテ昂リ此ノ案ハ大多數ノ賛成ヲ得テ忽  
々衆議ニ附セラル、事ニ決ラズル程耶只見ル一首東  
北者ノ叫聲モテ十日島田立川等ノ演說ニ嗔テ  
掛ル者アリ一同冷笑的ノ好奇心モテ目ヲ注ゲバ是ハ  
宮城縣ハ仙臺、産千葉常胤ナリ立川雲平ハ横  
濱、眞字日クハ是ハ題議外ナリト議長割リテ曰ハ

今日ノ決議モ干涉ニ關スルナレハ其ハ言島田立川氏等  
ニ論ニ及ブモ亦不可ナリト千葉ハ之ニ氣ヲ得テ重ク  
聲ヲ揚ゲテ曰フ「島前氏」昨日虛言ヲ吐ケリ  
我が宮城縣第五區ニ於テ決ヒテサル事ナシト甘ク  
脚下ノミヲ見テ天下ノ事莫ク盡ク律ニ去ラントセル  
無邪氣ヲ加減ニ滿場ノ笑聲ヲ發シテ又觀ニん者  
ナカリシガヒ英、毒ニ此時高知縣ノ武市安成ハ  
痰ク壇上ニ立テ其風手漫然君子ノ氣アリ高知  
縣ニ於ケル干涉、事案ヲ列テ手ニ集メテ慷慨厲  
聲ニ於ケル拍子、曰ク吾人ハ血雨ニ濡リ白刃ノ下



ヲ潜リ以テ此演壇ニ来リ此ノ問題ハ大内題  
ナレバ此ノ一節ニ返シ短キ会期ヲ畢ルトモ悔イズ  
ト叫バ平等ヲ高知器ヨリ匿奉クヤル  
片ノ固直温ハ政府干渉底澄ニ依リ僅ニ  
議者トナリ得タル思恩ヲ報ユルハ此時ナリ  
ト高知顔マシク演壇ニテ日ウ余ハ止ム得ズ  
此案ニ反列ス未カ干渉ノ實ヲ由テ答澄セカシテ  
早ク議決ヲナスハ早計ナリ干渉ノ實ハ余固ヨリ是  
ヲ認ム高知器ニ於テハ國民派固ヨリ罪アリ自由  
党亦罪ナシトセズ」ナトト音吐朗々ハ快辯ヲ振ヒテ

高知器政亮、在史ニ漸ク更ニ総選考ノ顛末  
ニ及ビ能辨債辨尤モ巧ニ時ヲ糊塗セシトカメス  
武者振ハ吏堂中ニ稀ナル手板ニテ大同以上ノ雄將  
ト知シ居ニ吏堂ノ旗色立直ク見ラレ又此ノ演  
説中議長席後、關連ヲ排シテ松方經理首メ  
後藤副馬太木榎本渡田国武等ノ諸大巨  
入り来リ在席ニ着キタルハ演壇ノ芝居  
急ニ色メキ立シカ片岡演説終ルヤ松方  
總理ハ斑白ノ頭顱ヲ一搖ニテ演壇ニ進ミ  
左手ヲ右ナリニ腰ヲ當テ左手ニニ尺ノ提紙原



稿ヲ卓上ニ控ヘ手中ヲ取出シテ口端鼻頭ヲ  
拭キテ數回今ヤ決議案ニ到ルニ政府決心ヲ示サ  
シモノト漸ク口ヲ開イテ當時決議案ノ趣旨ハ政  
府ニ在リテ其言ナリト報明シ最後ニ稍聲ヲ  
震シテ「衆議員ガ縱令如何ニ決議ヲナストモ  
斯ル輕率妄動ノ爲ニ國務大臣ハ容易ニ進退ヲ  
決スベキモノニ非ズト案ヲ打ツテ擬勢ヲ張りタレドモ  
滿場怒聲トシテ之ヲ聞キ流セルノミ吏堂ハ其勢  
甚ク揚ラズ場内大ニ色メキテ大畏敵ノ類ニ味チ  
同助カノ勇氣ヲ點檢スル様ナリシガ民黨最後

ノ論者鳩山和夫ハ此時演壇ニ立テ片岡直  
温ノ説ヲ駁シテ此ノ如キハ高知政黨ノハ歴史ニハ  
本問題ト一向關係ナシト冷嘲シ去リ片岡氏ノ言中  
ニ此度ノ選挙ニ際シテ有志家モ干渉シテ  
村長モ干渉シテト云フノ意ハヤダ是レ警部  
部長知事皆干渉シタルノミナラズ果テハ村長モ有  
志家モ干渉シタルト云フニ同じト急所ヲ突キ論鋒  
一轉シテ内閣大臣ハ干渉ノ實事實ヲ知ラズ又竹書ナシ  
可レ直ニ知ラズトスルモ罪ノ罪ナリ宣シテ其ノ罪  
任セザル可ラズ決議案ニシテ始メテ衆議員ノ氣ヲ



吐クニ足ル何トナレバ 運議ハ信囑請求、若クモ味ヲ  
舎ム然レモ是政、付ハ被若クリ、吾々ハ被吉ニ向テ  
宣告文ヲ下セム可ナリト其言ニ寸鉄人ヲ殺スル  
ノ意氣ハナレシド論理一母身辭令周匝例ヲ  
争ゲ澄ヲ引キ理攻ニ政府ヲ取詰メタル処  
満場ノ同感ト合意ヲ得ルニ十分ナリキ鳩山が  
壇ヨ下リヤ討論終結ノ聲四隅ニ起リ議長  
又記者投票西ホク宣言スルハ白票ヲ投スルモノハ  
意氣場々凱戦將軍ノ如ク青票ヲ投スル  
モノハ敵敵トシテ死地ニ就クノ牛羊ニ似たり

投票終ツテ書記官ハ筐ヲ開キ衆目ノ前ニ青  
白ヲ殺ヘ分ツニ白票多ク事見テ取ツルニ吏者議  
員ハ一人去リ二人去リ議長ノ宣告ヲ待タカシテ  
続々又ヨ倒ニシテ出シ投票ノ結果ハ決議案  
賛成百五十四否決スルモノ百十一民黨万歳ノ叫ビ  
堂ヲ撼ヤリカクテ民黨ハ彈劾上奏案ニ破レタル  
慮辱ヲ決議案ニテ取返シ今マ破竹ノ勢カヲ以テ  
政府ハ提出スル製鋼製艦費ナリノ重要問  
題ヲ盡ク破壊シ去リしか松方内閣ハ民黨ノ主  
張スル内閣ノ責任ナルモノヲ否認シ云フ「政府ハ一人ノ



信任ニ依リテ存立スルモノナラバ議會、彈劾ヤ  
不信任決議ヤ予算ノ大削減ナドノ爲ニ其ノ存立  
ヲ脅カサザル<sup>ルモ</sup>アラスト突然專政制政治家ノ口吻  
ヲ以テ議會會ヲ無視シテ恣地汚ラシテ腰ヲ抜カセル能ハ  
度、マニヤ議會、會期ヲ終リ形、上ニハ免ニテ角  
第三議會云フ通過セリ然レニ議會已ニ終リテ外敵  
一旦去ルヤ兼テ副島内務大臣が民黨ノ首領ナル大隈  
板垣ト會見シテ監査會ヲ設ク後始末ヲ取繕ラハシテ  
シ約シ且各地ノ知事ニシテ選考ニ干渉セシ者ヲ  
処分セテ勸告ヘルヲ憤懣セル内務次官白根專一

ハ元來無學、男ナレトモ頗ル事務、オアリテ大膽物  
ニ聲氣カナル曲物ニテ桂太郎以上ノ人傑ナリト評セ  
ラレタレ程ナレバ大ニ副島ニ反抗シテ副島が一意  
揖讓シテ天下ヲ治マントスルヲ齒痒キ事ニ思ヒ  
其志ス処皆副島ノ反刺ニ出デシカバ副島ハ  
勸越トシテ奴ヨリ已大臣トシテ却テ次官ニ制令  
シ得ガハ身ノ不徳ナク存ナリトシテ六月五日断  
然職ヲ辞シテ野ニ下リ副島ハ在職ハ僅カ三月  
ニ過ヤカリシナリ先ニ奥宗光去リ次ニ品川弥次  
郎去リ今又副島種臣去リタル後ノ松方内閣



○於テ重要問題ニ列スル意見ヲ立ツルモハ唯  
一勝久高島之勸之助兄ノミ高島ノ素ト豪族ノ  
資アリテ其ノ軍國政策ノ實行ヲ期シ民黨ト  
輿論トヲ眼中ニ過カズ伊藤其ノ他、長州元老連  
ヲ蔑視シ直ニ文字ニ專制政治家ノ態度モテ突  
進セシトスル者ナレバ己、都合次第ニテハ民間ノ豪族傑  
トモ握手シ是非共松方ヲ援ケラビスマラクダラシメ  
己モモルトケダラニ事ヲ期シ萬止ムナキ場合ニハ  
其ノ大層カク陸軍ノ兵ヲカモテ衆議員ヲ砲撃  
スルヤハ辭セザルノ蠻骨アリ、其ノ非立憲的ナルハ

如シカト雖モ自ラ東方政策ノ上ニ立ケテ我カ  
却ノ位置ヲ進メン者ニ此際是非ニモ軍備擴張  
ヲ断行セザルベカラズトノ信念固ク執テ伊藤等  
ノ元老連ノ反對等ハ氣ニ掛ケズ在野黨ノ庶幾傑  
タル頭山満等ト結ビテ民黨ヲ蹂躪セテ策ヲ立テ  
一方ニ伊藤山縣縣が連日元老會議ヲ開キテ  
宮廷ニ怪シキ運動ヲ始メタルヲ見テハ今ハ答教ナリ  
カタト元老等ヲ兵カモテ追拂ウント松方ニ親キレモ  
好人物ナル松方ハ民黨ヲ憚リ伊藤等ヲ恐レテ之  
ニ従リザリケレバ高島ハ憤慨シテ松方ヲ陸軍ノ面



汚シテリト面前ニ置リ又松方が斯ク愚国々々ニ  
目ヲ逆レルハ一方ニ横著者、後藤象次郎アリテ  
松方ヲ説キ付ケタル結果ニシテ元来後藤ハ豪傑ヲ  
数ムヘハ奸物ナレバ最初ハ陸奥宗光ト進退ツサニセシト  
約シ陸奥が松方内閣、暴圧手段ニ反対シ選挙  
干渉ニ憤リテ其ノ部下ナル織田純一印ニ内命シテ  
寸鉄ト題スル新聞紙ヲ起サシメタル際ハ人後藤モ  
之ニ賛成ニシテ其ニ資金ヲ出セル間柄ニ寸鉄ハ後  
人手ニ渡リテ今日ノ萬朝報トナシルモノナルガ  
其ノ創立當時ハ寸鉄人ヲ殺スルノ筆鋒甚カ

鋭ク政府民衆、何レモ偏セズ嚴正ナル批評ヲ加  
ヘ松方内閣、暴圧手段漸激シテナリテハ寸鉄  
モ愈々ヨ鋭キ筆鋒モテ専ラ政府ヲ攻撃シ陸奥、  
其身内閣大臣ノ職ニ在リテカラス教々匿名ニテ政府  
攻撃ノ文ヲ其ノ紙上ニ載セ大ニ朝野ノ耳目ヲ聳動  
セシメタルゾ斯クト見タル後藤象次郎ハ陸奥ト共  
政府攻撃ノ中心トナルハ已、地位ヲ危クスルモノナリト  
利害、打撃等ニ苦心シ此ノ頃中リ曖昧ノ態度ヲ  
取り陸奥ト遠カリヤカテ陸奥が政府ノ非立憲ヲ  
憤リ大臣ヲ辞セル後モ後藤ハ前日ノ約束ヲ反古



ニシテ未ハ晝一旦内閣ニ列セシ以上飽迄内部ヨリ  
改輩ノ任ニシテ高止ムナクシテ政府カ瓦解シテ  
ル迄前途ヲ見届ケニ考ヘナリト辨解シ厚  
類無恥ニモ陸奥ヲ見殺シテ恬然トシテ大臣ノ椅子  
ニ啗リ付キシカ同ジク何、定見モ主義モナクシテ総理  
大臣ノ椅子ニ啗リ付ケル松方ハ好キ合ハ口トナリ今ハ  
一切松方ト後継、其日暮ラシ也帯然ル内閣トナリ  
免ニモセヨ副島ガ去レシ後ハ一日モ早ク内務大臣  
ヲ据付ケシモノト農商務大臣野河野敏録ヲ  
内務大臣ニ轉ジ其、後任ニハ佐野常民ニ入レシガ

此時河野ハ内務大臣ヲ、任ヲ料スル、條件トシテ  
選挙ニ于テ多ク地方官ヲ更迭スル事及ビ左野、  
政黨ト關係ヲ絶ツ事ヲ松方ニ承認セシメラレバ  
選挙干渉、被本人先白根專一、列火、和テ墮リ  
河野就任、翌日内務次官ヲ辭シ去レシゾ河野  
ハ直ニ後継象次郎ト圖リ、著々選挙干渉、善  
後策ヲ施シ先カ福岡縣知事トシテ九州控部、  
驍名ヲ轟カセシ安場保和カ干渉、事案ヲ數ヘ之  
ヲ愛知縣ニ轉任セシメシニ安場ハ此ノ命ニ據レテ大ニ  
怒リ急ニ上京シテ陸軍大臣高島勅之郎



海軍大臣樺山資紀の訪と松方ニ列スル不平ヲ  
新ハタト先ヨリ河野敏鎌ノ政策ヲ快ヨカニ  
思ヒ松方總理ノ無能ヲ能ニ呆レテ暫ク内閣  
ニ顔出モセテアリシニ大臣ノ最早我慢ナラズ  
飛出出シテ大ニ内閣ヲ攻撃シ七月二十七日ニ同  
時ニ辞表ヲ呈センニゾ松方ハ殆ド手足ヲ断タラ  
レ感ハニテ流々ナカラ上表シテ總理ヲ辭セトセシニ  
此時伊藤井上兼長川元老連ハ已テ手ニテ後  
継内閣ヲ組織セン魂膽最中ニテ未カシ準備  
整ハガレハ宮廷ニ取り入りテ今夕時松方ヲ飾物

ニシ置カシ運動ヲ爲シ遂ニ聖上ノ慰諭出シテ  
松方ハ再ヒ留任ト事極リシモ日教經テ陸軍  
大臣ノ後任ヲ得ル事能ズ松方ハ後藤象次郎  
ト手ヲ握リ合ヒテ鐵死セル体ニ齧レ去レリ

第二次伊藤内閣品川林次郎ノ狂態

松方内閣倒レテ後黒田山縣伊藤井上兼元老連  
逐次参内シ進見言々スルアリ詔ヲ奉ヒテ連日後  
継内閣組織ノ事ヲ評議セシカ遂ニ於鉢ハ伊藤博文  
ニ廻シテ予定通ッテ第二次伊藤内閣成立ニ閣員ノ顔  
觸ハ元老ヲ網羅セルモノナリキ即チ伊藤ノ總理ノ下ニ



山縣ノ司法大臣黒田ノ逓信大臣中上ノ内務大臣  
大山巖ノ陸軍大臣後藤象二郎ノ農商務大臣  
陸奥宗光ノ外務大臣河野敏輔ノ文部大臣  
仁礼景範ノ海軍大臣渡辺國武ノ大藏大臣ナリ  
詰リ元老連ニ已ニ三回ノ議會ニ於テ民間黨ノ勢力  
尤ニ猛烈ナリニ鑑ミ今ハ陸長連合總出ニテ内  
閣ヲ組織シ以テ共同ノ利權ヲ維持シ行カント相  
談ヲ調ヘ前内閣ニテ憲法ヲ強キタリシ松方  
ヲモ今次ノ内閣ノ一員トサントセシタルカ流石松方ハ  
一旦投出セル内閣ニ又モ俾食大臣タルノ面目ナク

然ラバトハナリ從來已カ次官トシテ信賴セシ我カ  
身ノ代リニ推薦シテ大藏大臣トセシテリキ渡辺ハ  
後ニ無<sup>渡辺</sup>以依禪ナド野狐禪ヲ氣取リシ似而  
非<sup>渡辺</sup>志<sup>渡辺</sup>亦<sup>渡辺</sup>不<sup>渡辺</sup>ニテ<sup>渡辺</sup>宜<sup>渡辺</sup>ハ<sup>渡辺</sup>大<sup>渡辺</sup>藏<sup>渡辺</sup>者<sup>渡辺</sup>ノ<sup>渡辺</sup>自<sup>渡辺</sup>録<sup>渡辺</sup>ヲ<sup>渡辺</sup>諳<sup>渡辺</sup>誦<sup>渡辺</sup>セ<sup>渡辺</sup>ん  
屬<sup>渡辺</sup>好<sup>渡辺</sup>變<sup>渡辺</sup>更<sup>渡辺</sup>ナ<sup>渡辺</sup>シ<sup>渡辺</sup>ハ<sup>渡辺</sup>伊<sup>渡辺</sup>藤<sup>渡辺</sup>博<sup>渡辺</sup>文<sup>渡辺</sup>ニ<sup>渡辺</sup>唯<sup>渡辺</sup>之<sup>渡辺</sup>ヲ<sup>渡辺</sup>俾<sup>渡辺</sup>食<sup>渡辺</sup>大<sup>渡辺</sup>臣<sup>渡辺</sup>ト<sup>渡辺</sup>ナ<sup>渡辺</sup>リ  
松<sup>渡辺</sup>方<sup>渡辺</sup>ヲ<sup>渡辺</sup>手<sup>渡辺</sup>懷<sup>渡辺</sup>リ<sup>渡辺</sup>ニ<sup>渡辺</sup>ナル<sup>渡辺</sup>カ<sup>渡辺</sup>一<sup>渡辺</sup>方<sup>渡辺</sup>不<sup>渡辺</sup>平<sup>渡辺</sup>滿<sup>渡辺</sup>タル<sup>渡辺</sup>高<sup>渡辺</sup>島<sup>渡辺</sup>權<sup>渡辺</sup>  
山<sup>渡辺</sup>縣<sup>渡辺</sup>カ<sup>渡辺</sup>藩<sup>渡辺</sup>人<sup>渡辺</sup>ノ<sup>渡辺</sup>語<sup>渡辺</sup>ヒ<sup>渡辺</sup>テ<sup>渡辺</sup>伊<sup>渡辺</sup>藤<sup>渡辺</sup>等<sup>渡辺</sup>長<sup>渡辺</sup>閥<sup>渡辺</sup>ニ<sup>渡辺</sup>反<sup>渡辺</sup>抗<sup>渡辺</sup>セ<sup>渡辺</sup>ニ<sup>渡辺</sup>ト<sup>渡辺</sup>ナ<sup>渡辺</sup>リ  
恐<sup>渡辺</sup>シ<sup>渡辺</sup>藩<sup>渡辺</sup>人<sup>渡辺</sup>中<sup>渡辺</sup>ノ<sup>渡辺</sup>長<sup>渡辺</sup>者<sup>渡辺</sup>タル<sup>渡辺</sup>黒<sup>渡辺</sup>田<sup>渡辺</sup>ヲ<sup>渡辺</sup>巧<sup>渡辺</sup>ク<sup>渡辺</sup>取<sup>渡辺</sup>入<sup>渡辺</sup>ト<sup>渡辺</sup>テ<sup>渡辺</sup>逓<sup>渡辺</sup>信<sup>渡辺</sup>大<sup>渡辺</sup>  
臣<sup>渡辺</sup>ノ<sup>渡辺</sup>嫡<sup>渡辺</sup>子<sup>渡辺</sup>ヲ<sup>渡辺</sup>子<sup>渡辺</sup>一<sup>渡辺</sup>大<sup>渡辺</sup>山<sup>渡辺</sup>仁<sup>渡辺</sup>礼<sup>渡辺</sup>ノ<sup>渡辺</sup>如<sup>渡辺</sup>キ<sup>渡辺</sup>軍<sup>渡辺</sup>務<sup>渡辺</sup>長<sup>渡辺</sup>官<sup>渡辺</sup>タル<sup>渡辺</sup>以<sup>渡辺</sup>  
外<sup>渡辺</sup>ニ<sup>渡辺</sup>何<sup>渡辺</sup>昇<sup>渡辺</sup>政<sup>渡辺</sup>略<sup>渡辺</sup>ナ<sup>渡辺</sup>キ<sup>渡辺</sup>モ<sup>渡辺</sup>ヲ<sup>渡辺</sup>大<sup>渡辺</sup>臣<sup>渡辺</sup>ト<sup>渡辺</sup>セ<sup>渡辺</sup>シ<sup>渡辺</sup>以<sup>渡辺</sup>テ<sup>渡辺</sup>藩<sup>渡辺</sup>人<sup>渡辺</sup>ノ<sup>渡辺</sup>機<sup>渡辺</sup>嫌<sup>渡辺</sup>



ヲ取り彼、後藤象三印ヲ農商務ニ置キタル  
元來謀反骨リテ節操チキ後藤ヲ疎ルハ虎ヲ  
野ニ放ツノ危険アリ又モヤ大同團結時代、如キハ  
民内憂ノ煽動セシ虎兇トアルハ假ニ伴食ノ椅子ヲ  
与ヘテ檻ノ中ニ飽滿隨眠セシ手段トシテ斯クテ  
今次ノ内閣ハ伊藤井上山縣ノ三人カ賄フ  
ベキモノナリトス山縣、武斷主義ハ伊藤井上、  
文治主義ト一致スベキモノニアラズト山縣ハ細心  
檢査ヲシテ此際伊藤ニ利ス不快、恚ヲ忍ビテ  
元勳總出ニ民年ニカ完他ナリト諱メ表面満是デ

ニ財取ヒテ是又伴食的元司法大臣、椅子ニ納マリ  
タリ要スルニ才ニ次伊藤内閣ハ高島や品川、如  
キ一母スル主張アルモノヲ除ケン薩長ノ連合ニシテ  
勝海外ニ是ト廟堂ニアラデ猫堂ナリト冷々天セリ  
通り互ニ己カ利益ノ爲ニ猫ヲ被シル者、寄合ナリ  
シナリ唯ニ陸奥宗元ノミハ内閣中尤モ年少ニ  
シテ新知識アリ其ノ智略ヲ以テ内閣、考謀者  
地位ニアリ松方内閣、倒レテ伊藤内閣、起リ陸奥  
ノ計謀用ヒラレテ品川、畫策敗レルモノト知ラレ  
伊藤井上ノ議會ニ利戦スルノ謀ヲ陸奥ニ聞カントセリ



是ニ於テ品川ノ權勢ヲ據リ所ヨ失ヒ不平遣ル方ナリ  
サリトテ公組伊藤内閣ニ反對シテ旗揚ケス又キ余也  
モナケルハ必死ニ智恵ヲ絞リテ此際國民協會ナル  
モノヲ組織シ政府ヲ別働隊トナルノ計劃ヲ存セリ  
サト下翻ヲ考フルニ松方内閣ノ例トタルハ其豎年  
ヲ法以來ノ暴政カ實出ホリヲ存ラズルニ勿論  
ナレトモ伊藤井上カ密進ニ跨リテ松方内閣ヲ破ハ  
ル事宜ニ争フヤカウズ殊ニ伊藤ノ遺業ニ松方内閣カ  
遺業ヲ法ナセル際大ニ之ヲ憤ラシ一旦枢密院  
院長ヲ辭セルニ陛下ノ宸翰ヲ賜リテ留任ヲ

勸ムルノ優詔ヲ過ヒ然ラズ品川ヲ辭職セシムヘトノ  
條件ヲ提出シテ留任セシムニテ品川トハ到底兩  
立シカウキヲ情ナシ今度新ニ組織セル内閣ニハ  
品川ノ敵ニ陸奥ヲ外務ノ要職ニ據ヘシキテ之ヲ  
謀トナリシタルモナレバ品川ノ面目ハ伊藤ノ遺業ニ蹂躪セラ  
レタル形ニテ慷慨氣概即ヲ傲ル品川ハ義理ニモ  
伊藤ノ前ニ膝ヲ屈スベキ勸合トハ覺ユカリシニ今ヤ  
如何ニシテ己ノ權勢ヲ保タン著シヤヤシノ策略トシテ  
國民協會ヲ揚ゲテ伊藤内閣ノ別働隊ヲラント  
企テタルナリ一ニ國民協會ハ明治三十四年三月廿二日



松尾内閣、まが倒し又前品川の己か干渉して還出  
サセタレし用派復の急に西郷従道の首領ニ  
奉じて細紙せん社交俱樂部ナリシモ其綱領ハ  
國權ヲハリ軍備ヲ増シ國家主義ヲ執ルト宜  
言セラル正しく一個、政體ト見ルベキ團體ニテ  
創立業全自品川孫丹即ハ淺淺ニテ日ク不肖孫ハ  
國家、陸昌ト幸福ヲ圖ラシ爲ニ身ヲ挺シテ此、協會  
ニ加入シタリ西郷伯トキト向ニハ干渉論ヲサレ  
確タル約束アリ西郷伯ニシテ謀反ヲ止ツル者アズ  
余ハ其ノ生首ヲ申スア申サシ若シ余ニシテ

謀反ヲ企ツルアラバ此ノ生首ヲ獻ゼン是余等  
兩人固ク相約シタル所ナリ若シ夫レ余等兩人ニテ  
敢テ私心ヲ挟ミ自利ヲ圖ルアラバ甘シテ生首ヲ  
諸君ニ指クベシトテ先ニ國家、大乱目前ニ迫レルカ  
如クカミ肩ヲ怒ラシ血眼ニナリテ天日ヲ指シ赤  
誠ヲ誓ヒ立後レノ帝用議員等ヲ威激セシマシム  
モ其社交俱樂部ニ投シテ其意改メテ作ノ今  
ヤ内心歎歎セシ伊藤内閣、別御隊タラシ私心  
ヲ抱キテ先キノ言ヲ反故ニセシ然レバ伊藤内閣  
ハ己ニ品川ニ反對セシ陸奥ヲ謀主トセシ有板シ



ナレハ選奉干渉ノ産物也國民服会ト握手  
シテ氏党ノ怒ヲ堪スノ愚策ヲ取ルヲ欲セス固  
ハ元先會議ノ席ニ西郷品川ヲ招キテ又語上ヨリ  
國民服会ヲ服会セヨト警告シ若シ従ハザんニ於テ  
ハ政府ハ國民服会ヲ自由改進黨ノ西党ト同類ニ見  
做シトノ離縁状ヲ付ケ又是ニ流石慷慨自任ノ品川  
モグワト行詰リ頓ニ答ヘモ得セザ情々ト引下リシ  
ガ今更國民服会ヲ服ス可キ面目ニヤケレバ毒ヲ  
食ハバ四マデノ覚悟ヲ定メ其十月品川ハ西郷ヲ  
促シテ國民服会ヲ起カテ全國ニ擴メントテ品川

自ラ休々支房和田彦次郎桐田盛文ヲ伴ヒテ  
中國九國ニ遊説シ西郷品川河島醇大同青蓮  
ヲ從ヘテ東北ニ遊説セシメ又丸レト寡黙ニシテ  
男慮深キ西郷ハ横紙破リノ品川ト心中スルヲ好マ  
テカ遊説中更ニ國民服会ノ存メニ墨スト見ヘス唯  
聖ル必酒ヲ呼ビ催歌ヲ歌ヒテ妓ニ戯シ更ニ要領  
ヲ得ヌ休ナリシ品川ハ之ニ及シテ其悲歌慷慨  
ノ調子ハ逆境ニ望ンデ強ント狂態トナリ或ハ失節  
吉田松蔭ヲ殺キテ印齒扼腕シ或ハ痛飲淋漓  
忠國愛國ヲ殺キ注上テトナリ宛然松蔭ノ



幽室文稿ヲ讀ムル役者トナリシガ無智ナル九國  
男子、太シ之ニ感服シ曰志氣ノ愛國論者等  
シ之ヲ崇拜シレド選弄干渉ノ慘毒ヲ被レシ  
一般國民、却テ昂リノ肉ヲ啖ン事ヲ歎シタリ而  
川が漢後ノ狂態愈激シテ自正ノ口ヲ公然選  
弄干渉ノ事實ヲ白白シテ曰ク「第二議會ニ破  
壞主義ノ徒跋扈シテ天皇ノ大權ヲ侵犯スルニ  
至リシ故議會ハ解散セラルタリ茲選弄ノ際強  
ク内務大臣トシテ再ヒ破壞ノ徒ヲ當選セシメ  
ハ國家ノ為、相濟スト心得彼等ノ當選ヲ妨ケテ

忠良ノ士ヲ弄ルニカノ出来得ハ限り選弄干渉  
ヲ行ヒタリテ自白スルノヒナラス今後ト雖も能近  
破壞主義ノ徒ヲ撲滅ス可ク予ハ決シテ虚言ヲ  
吐カス因リ之ヲ神明ニ祈テ者ナリ」ト宣ヒ世ノ談ハ  
狂人ト馬鹿トハ認メキハナシトカヤ昂リハ民衆ハ  
政府ノ横暴ヲ怒リ見テ其何故ニ怒ンヤヲ察  
セス一概ニ之ヲ破壞者ト見做シ自ラ憲法ヲ精  
神ニ及セル干渉ヲ行ヒナカシ却テ國民ニ向ツテ大  
權ヲ侵害セリト叫ガ正氣ノ沙汰トモ思ヒシサリ  
キ茲ニ國民議會ノ生立及其官民ノ間ニ違取ラレ



スルカヲ知ル一例ヲホサシニ彼ノ頭山満、品川ノ  
選奉干渉ノ際、民軍ヲ蹂躪シ朝野ヲ驚愕カセ  
ルモノニテ其始ノテ板垣ヲ土依ニ訪内セン以來、彼ノ  
熱心ニ自由主義ヲ唱ヘテ九州ニ覇ヲ握リ稱シ  
其後政化主義ノ官僚政治親シシテ井上士隈ノ  
信約改正ノ事露ハルヤ遂ニ其門下ヨリ来島  
恒喜ノ如キ志士ヲ出シテ依名ヲ天下ニ謳ハル、  
事トナレリ其際頭山ニ熊本國權党ノ佐々友  
房ト相接ケテ硬論ヲ唱ヘタル間、佐々友房  
保和ニモ親交ヲ結ブニ至リ一方政化主義系統

、伊藤大隈ヲ憎ムノ念ヨリ安場佐々等ノ周旋  
ニ因リ松方正義ト會見スルコトナリ茲ニ於テ  
頭山ノ對外硬論ニ松方内閣ノ下ニ高島等ノ  
在テシ軍備擴張論ト一段ノ其結果頭山ニ自  
由党ヲ歎祝スル羽目トナリ松方内閣ノ選奉干  
渉ニ應接せん迄、身ナシカ頭山ニ敢テ自由党ヲ憎  
ムニハアラズ自由党カ己ノ憎ム伊藤ト睨存セシ  
トナルヲ憎ムルモノニテ嘗テ一論客ガ憲法論  
ニ援リテ頭山ノ干渉應接ヲ詰リシ際、頭山ニ  
予ニ憲法ノ如キハ三下ニ讀ミシム事ナシ由來



伊藤學が作りたる憲法、末節何しかアラシ  
吾が胸中、富強の伊藤學、成文憲法ヨリ遠  
ニ高大無邊ナリト答へしト傳へらん、位ニテ頭  
山、伊藤ヲ卑ケルノ念ヨリしテ松方ト結  
々ルモノナシニ其松方ハ余リニ勝ノ弱キ好  
人物ニテ中途ニテ疑懼シ其始メテ千人ヲ  
敵トスルモ決シテ所信ヲ改メスト宣言せん約  
束ヲ遂行シ得ザルト見ル中頭山ハ大ニ憤  
慨シ松方ニ最後ノ忠告ヲ為シテ云フ「予輩  
が政府ノ違背干渉ヲ助ケシハ軍備ヲ擴張

セシ手段ニテ」リビスマークノ政策ヲ學ハントヤシ  
モノニテ己ニ干渉ニ依リテ民間ニ血ヲ流スノ悲慘  
事ヲ起セシハ大罪ナレバ之ヲ償フニ為ニ更ニ奮  
進シテ最初ノ目的ヲ實現セザレバ可ラスト在レド  
松方ハ愚圖々々ニテ其罪惡ヲ償フニ決心セズ  
模様ナケレバ是ヲ頭山ハ大ニ悔悟シ松方ト交  
シ絶チ居リシニヤガラヨリ国民服会ヲ組織  
セシトテ西郷高島古荘嘉山等ト青山十九西  
郷、即ニ相談会ヲ開キし時再三使者ヲ遣テ頭  
山、出席ヲ促カシタレバ頭山ハ斬ク出席シ若川



茅ノ勸誘ヲ謝シテ曰ク「凡ソ天下ノ事、為スト稱  
シテ為ス事アリ、為サスト稱シテ為ス事アリ又  
為スト稱シテ為サソん事アリ、為サスト稱シテ  
為サソん事アリ、今諸公、為スト稱シテ為サ  
ボウシトムんヤ、余ハ寧ロ、為サスト稱シテ為サ  
ウシノ、一ト是レ選舉干渉ヲ在テシ、薩摩人  
ノ為ス事ナキヲ見テ、西ノ又、近川等ガ、伊藤井  
上等ヲ敵トシ、氣未だヤキヤ言ハんヤリ、岡山  
カ選舉干渉ニ、恣横セんと、學生ノ事、宜ト  
シテ、對外、強ノ主張ヲ、軍備ノ擴張ヲ、為サ

カ、為ソニテ、民責征伐ヲ、思立ケムンモノナレバ、其  
孩子ハ、唯、杉方、品川ノ、個人的、權勢ヲ、利せん、こ  
ニテ、彼ハ、決死ノ、陣頭ニ、立ニ、至ラズ、徒ニ、干渉ノ、罪  
重ヲ、負フ、テ、身ト、成リ、終リ、之ヲ、岡山ハ、深ク  
自ラ、責メ、テ、再ニ、政界ニ、出テ、サリ、キ、是、故ニ、  
司、氏、恨、今、ナレ、予ハ、伊藤、藤、ト、戦フ、コト、モ、為、シ  
得、ス、終ニ、天下ニ、同志、アリ、得、ン、事、モ、ナ、ラ、ズ、品川ノ、  
似、而、非、廉、慨ハ、私、心、ヲ、遂、ケ、レ、策、略、ナ、リ、シ、リ、初  
明、也、ル、ニ、交、似、タ、ラ、レ、乎

明治二十五年十月品川痛吹江西島從道



佐賀ニ遊説ニ来ルトノ教頻々ナリ民克飛テハ  
軒部佐賀ハ指少路ノ民克俣事部ニ集后  
トテ之カ對策ヲ講不<sub>レ</sub>然<sub>レ</sub>ニ西郷ハ来<sub>レ</sub>久<sub>レ</sub>居  
川<sub>レ</sub>彌次良<sub>レ</sub>廣<sub>レ</sub>昌ノ代議士和<sub>レ</sub>田<sub>レ</sub>彦<sub>レ</sub>次<sub>レ</sub>ノ啓  
見<sub>レ</sub>昌ノ代議士和<sub>レ</sub>田<sub>レ</sub>盛<sub>レ</sub>文ヲ伴ヒテ遊説ニ来  
ル佐賀ノ辰和館ニ演説会ヲ開ク佐賀ノ田  
中<sub>レ</sub>禮<sub>レ</sub>實(元陸軍大佐)開会ノ辞ヲ俾テ和<sub>レ</sub>田<sub>レ</sub>盛  
文和<sub>レ</sub>田<sub>レ</sub>彦<sub>レ</sub>次<sub>レ</sub>印<sub>レ</sub>品<sub>レ</sub>川<sub>レ</sub>彌<sub>レ</sub>次<sub>レ</sub>即<sub>レ</sub>ノ暇<sub>レ</sub>序<sub>レ</sub>ニテ演  
説<sub>レ</sub>テ和<sub>レ</sub>田<sub>レ</sub>盛<sub>レ</sub>文ニ明治十年<sub>レ</sub>在<sub>レ</sub>東<sub>レ</sub>京<sub>レ</sub>爲<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>演  
ノ教<sub>レ</sub>ヲ<sub>レ</sub>寄<sub>レ</sub>ニ<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>テ大<sub>レ</sub>久<sub>レ</sub>保<sub>レ</sub>利<sub>レ</sub>道<sub>レ</sub>ノ内<sub>レ</sub>命<sub>レ</sub>ヲ<sub>レ</sub>度<sub>レ</sub>テ

西郷<sub>レ</sub>晴<sub>レ</sub>教<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>爲<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>唐<sub>レ</sub>史<sub>レ</sub>局<sub>レ</sub>ニ<sub>レ</sub>歸<sub>レ</sub>ク<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>ト<sub>レ</sub>西<sub>レ</sub>郷<sub>レ</sub>彦<sub>レ</sub>  
ニ<sub>レ</sub>捕<sub>レ</sub>ヘ<sub>レ</sub>ラ<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>口<sub>レ</sub>勝<sub>レ</sub>教<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>口<sub>レ</sub>書<sub>レ</sub>ヲ<sub>レ</sub>取<sub>レ</sub>ク<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>ト<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>ナ<sub>レ</sub>ル<sub>レ</sub>カ<sub>レ</sub>割  
合<sub>レ</sub>ニ<sub>レ</sub>應<sub>レ</sub>力<sub>レ</sub>ハ<sub>レ</sub>ラ<sub>レ</sub>レ<sub>レ</sub>凡<sub>レ</sub>演<sub>レ</sub>説<sub>レ</sub>ハ<sub>レ</sub>左<sub>レ</sub>能<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>年<sub>レ</sub>ニ<sub>レ</sub>ア<sub>レ</sub>ラ<sub>レ</sub>ス  
和<sub>レ</sub>田<sub>レ</sub>彦<sub>レ</sub>四<sub>レ</sub>路<sub>レ</sub>ハ<sub>レ</sub>懸<sub>レ</sub>河<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>辨<sub>レ</sub>定<sub>レ</sub>ニ<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>醉<sub>レ</sub>ハ<sub>レ</sub>シ  
品<sub>レ</sub>川<sub>レ</sub>彌<sub>レ</sub>次<sub>レ</sub>良<sub>レ</sub>ニ<sub>レ</sub>至<sub>レ</sub>ツ<sub>レ</sub>テ<sub>レ</sub>伎<sub>レ</sub>カ<sub>レ</sub>内<sub>レ</sub>務<sub>レ</sub>大<sub>レ</sub>臣<sub>レ</sub>ト<sub>レ</sub>リ<sub>レ</sub>シ  
ト<sub>レ</sub>云<sub>レ</sub>フ<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>ミ<sub>レ</sub>ニ<sub>レ</sub>テ<sub>レ</sub>演<sub>レ</sub>説<sub>レ</sub>ハ<sub>レ</sub>極<sub>レ</sub>ク<sub>レ</sub>馬<sub>レ</sub>布<sub>レ</sub>ナ<sub>レ</sub>リ<sub>レ</sub>先<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>辰  
和<sub>レ</sub>毅<sub>レ</sub>ニ<sub>レ</sub>身<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>セ<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>數<sub>レ</sub>ハ<sub>レ</sub>九<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>三<sub>レ</sub>千<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>ト<sub>レ</sub>評<sub>レ</sub>セ<sub>レ</sub>ラ<sub>レ</sub>ん  
民<sub>レ</sub>克<sub>レ</sub>ニ<sub>レ</sub>於<sub>レ</sub>テ<sub>レ</sub>ハ<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>際<sub>レ</sub>徹<sub>レ</sub>底<sub>レ</sub>的<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>官<sub>レ</sub>克<sub>レ</sub>ヲ<sub>レ</sub>壓<sub>レ</sub>セ  
サ<sub>レ</sub>ル<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>カ<sub>レ</sub>リ<sub>レ</sub>ス<sub>レ</sub>ト<sub>レ</sub>第<sub>レ</sub>彙<sub>レ</sub>百<sub>レ</sub>條<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>奇<sub>レ</sub>部<sub>レ</sub>ヲ<sub>レ</sub>身<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>人  
ル<sub>レ</sub>ニ<sub>レ</sub>五<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>遊<sub>レ</sub>説<sub>レ</sub>ヲ<sub>レ</sub>長<sub>レ</sub>持<sub>レ</sub>三<sub>レ</sub>十<sub>レ</sub>遊<sub>レ</sub>説<sub>レ</sub>ヲ<sub>レ</sub>荷



事ニ事持リ討ヤチ二千入新リ列リ乃シ操  
込山者長持ニ鏡ヲ入レて梵ヤ刀割リ入レて  
ヤ又ニ辯當ツ入レて凡ヤ新明テ久ク書持ニ世  
今ノ跡ノ衰手中至板師抗至板方面  
ハ全ク明代ナリシテ今ハ一ノ方也江蘇物本  
比ノ部名碑方面と貴氏元儀シ美シ官氏  
續突セハ何如ナリ事總引起ナト長久也  
ラ此ノ交コト江蘇物本武官討敵氏等  
ノ傳説アリナリ(終)

### 追記

序文ノ紙數足りス仍テ左ニ追記ス

### 追記序文

肥前國ハ西海ノ僻遠ニアリ然レモ日本ノ文明ハ  
肥前ヲ經由セテハ莫シ支那ノ立國ハ已ニ四千  
年、日本ノ立國ハ武千六百年而シテ肥前國ガ  
日本ノ西端ナリテ以テ開會以來其沿岸ヲ侵  
スコト頻々ナシモ能ク之ヲ擊退セリ上世神功皇  
后ノ三韓征伐中世大嘗ノ朝鮮征伐皆肥前國



ヲ根拠トセリ佛僧ノ渡来、吾唐遣使ノ経役  
窃肥前國ヲ通過シ五島ハ其中国休息地  
タルコト五島通史ノ示ス所ナリ四書五經其他  
漢籍ノ輸入モ是同シ明國カ国書捧呈ニ便  
者ヲ送リシモ肥前ヲ通過ス

葡萄酒ヨリ耶漢教ノ輸入、オランダ人が  
唐芋ヲ平戸、持来リ其種全国ニ傳播セ  
ル事實平戸ハ中世已ニ外國人ト貿易開港  
セル事實等ヨリ見ルモ外國ノ知識、肥前  
國ヲ經由セサルナシ

是故ニ肥前國、樞要ノ地トシテ徳川幕府ハ  
長崎港ヲ開港シ長崎奉行ヲ置キテ外交々  
涉ノ地ト爲シ且ツ長崎港教習備ヲ佐賀筑  
前ノ二藩ニ受持セシリ

是故ニ薩ノ西卿、長ノ井上馨、伊藤博文高  
松普作等長崎ニ外國語研究ニ来ル佐賀  
ノ大隈、副島武雄、山口等ハ言フニ及ハルナ  
リ

大砲、小砲ノ傳習、兵武操練、醫術ノ傳習  
等皆長崎在面ノ外國人ニ傳授セラル



戊辰ノ役ニ於テ明治天皇ノ偉業ヲ翼賛  
シタルハ肥前國トシテハ佐賀大村平戸ノ三  
藩ニ指テ居セザん可クス實ニ三藩ハ立憲政府  
ノ先驅者タリ

慶應三年勤王佐幕ノ西論天下ニ起リ  
勤王軍京都ニ出兵セシトスルニ降シ大村  
平戸ハ佐賀ト共ニ上京セシト欲スルノ色アリ  
然ルニ佐賀ハ議論團トシテ議論ニノミテ奔  
リ実行ニ疎シ殊ニ大隈副島江藤大木ノ如  
キハ西邸ト長崎ニ於テ深ク約スルコトアリシニ

藩士中野數馬ノ如キ藩公ノ序側役ナルニ  
拘リラス天下ヲ知ルノ明ナク幕府ヲ恐レテ決ス  
ルコトナリ蹶蹶ノ尖西邸ノ使者薩藩士村田  
新八ハ大村平戸ニ出兵ヲ進メタルハ右西藩ハ  
佐賀ヲ觀シス薩州ト共ニ出兵シ明治元年正  
月三日ノ京都ニ於テ幕軍ヲ破リタリ佐賀ハ漸ク  
ニシテ益大公藩兵ヲ率ヒテ上京セラルレシモ已ニ幕  
軍敗奔ノ後ニシテ伏見島村ノ合戦ニ戦印ヲ  
見ル能ハス其後東北ノ戦ニ於テ北陸長ヨリ佐賀  
藩ニ對シ難所ヲ支持シシメラルハハキ伏見トナレノ



仍テ其論功行賞ニ於テ大村藩ニ二万七千石  
ノ大名ニシテ三万石ノ賞典ヲ受ケ佐賀ニ三十六  
万石ノ大名ニシテ二万石ノ賞典ハウ受ケレハ  
他藩ニ後シタシ故ナリ予ハ甚ク之ヲ遺憾ト  
ス  
為政家ニシテ余リ議論ノシニ拘泥シ実行  
ニ疎ナルトキハ及對党ニ乘ヒウシ不結果ヲ  
見ルニ終ルノ以レアリ注意ス可キ事ナリトス  
以上

予ハ如斯前後不揃且ツ文字粗悪ノ本ヲ呈ストリ  
アラス然レモ所方ニ身如何モ身ヲ諒セウレヨ

選挙後干渉ノ事實ヲ糾明セリトテ二位  
氏ハ上京セリ其見送人ハ皆人カ車ニ乘  
ス是佐賀停車場見送ラシガ為ナリ其  
人カ車ノ多キコト甚カ敷所ヨリ東ニ扇町ニ達  
ス明治年中人カ車ノ數ク連テ見送シ  
為ニタルハ是リ以テトス以テ人心ノ昂憤  
也シカヲ推知ス可シ

廿五年ノ選挙年ノ投票ハ姓名ニシテ年終

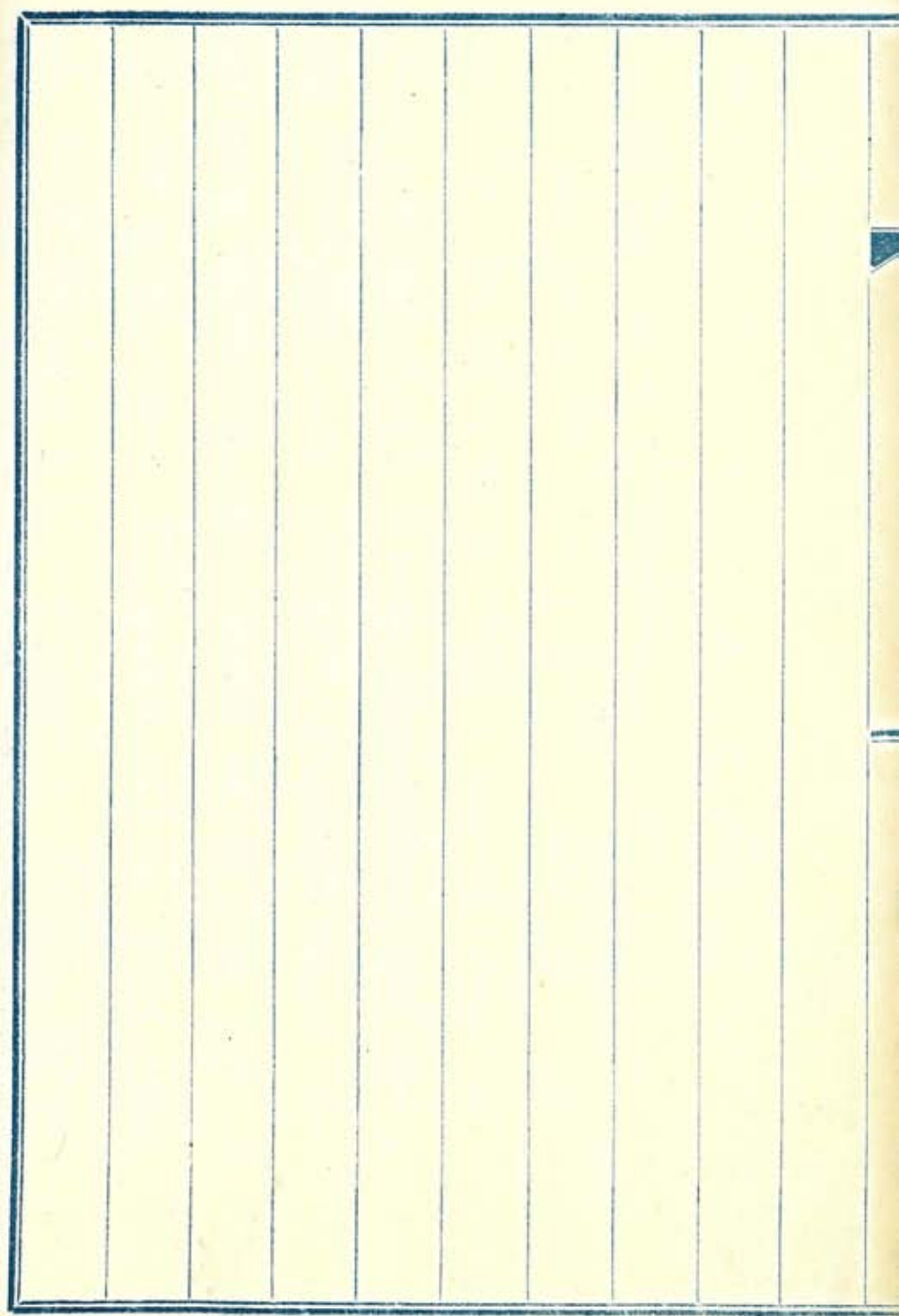


職業性沙氏名ヲ記シ定印ヲ打捺セサル可  
ラス故ニ投票簿ニハ戸籍簿・印鑑簿等  
ヲ對照ノ為メ備ヘタリ

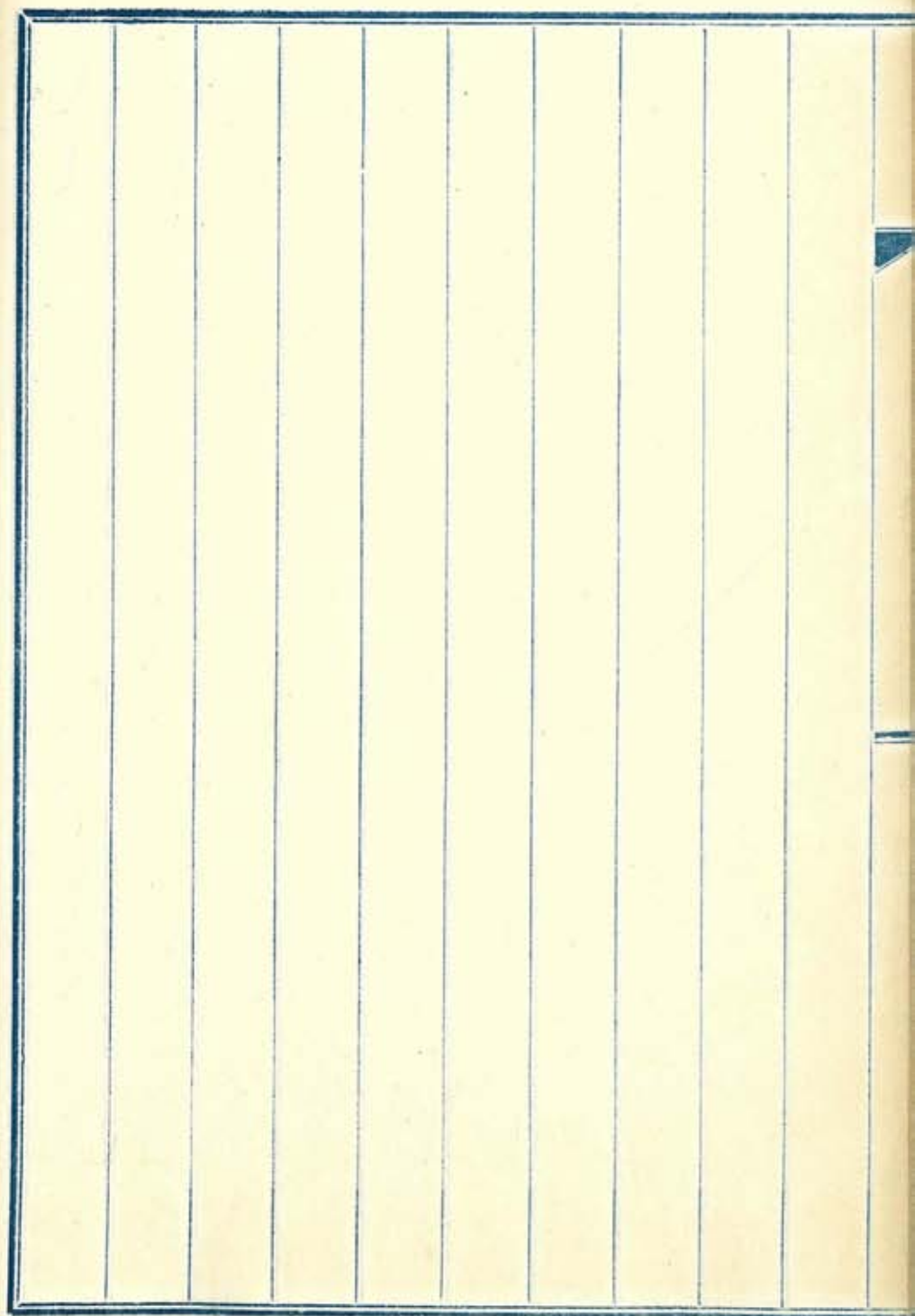
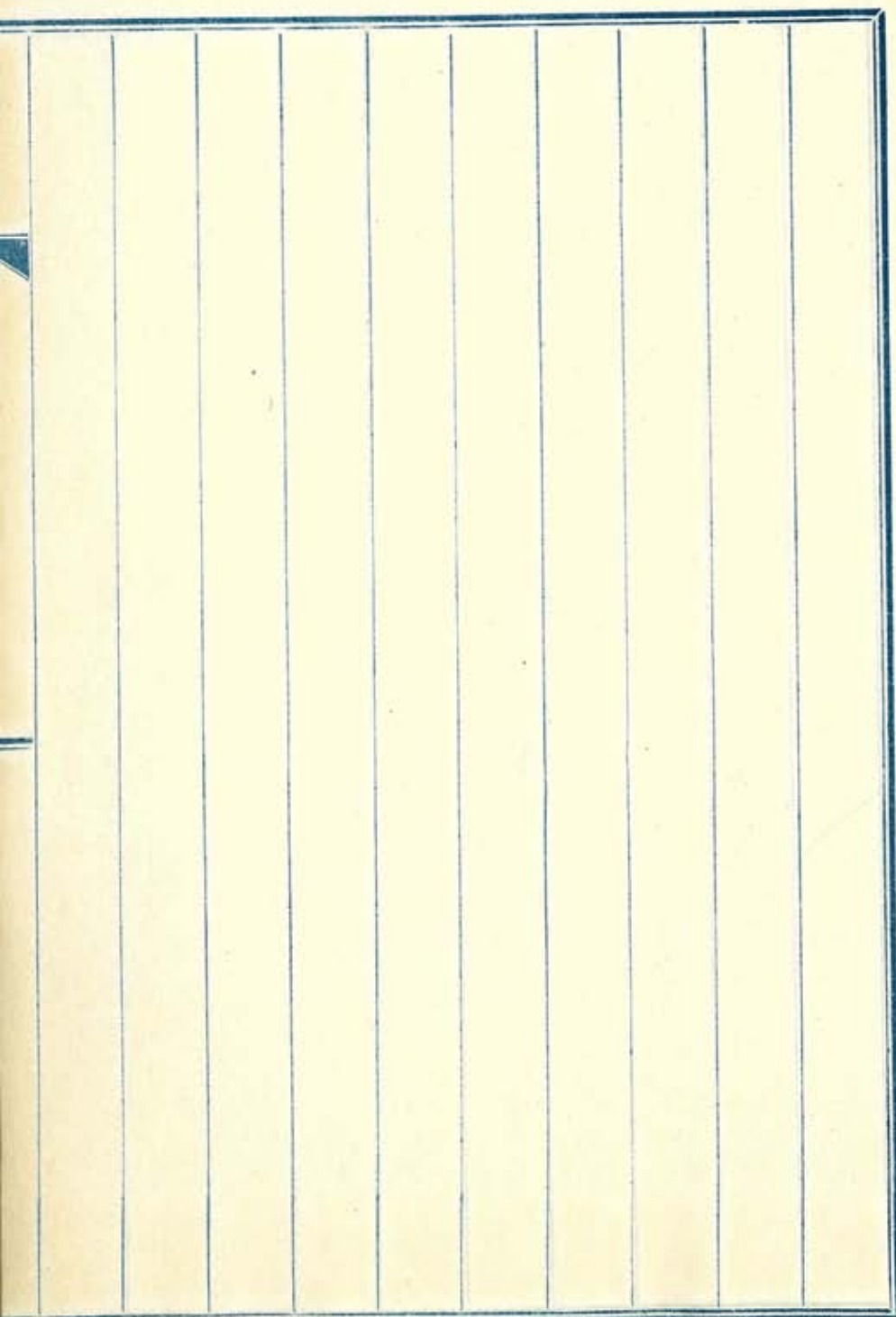
選三年、二三日前ヨリ仕士輩二人輒、人力車  
ニテ横行スルトキハ人力車又懸声ヲ爲シ  
先頭、仕士ハラツバヲ吹テ勢ヲ示スラツバト  
人力車又、懸声。人力車ノ音ト相競合シ何  
十人、仕士横行シタルカト切切ニ之ヲ聞ケハ  
天魔モ潰レ、心持ニテ夜中ハ早クヨリ戸ヲ

閉ケテ他出スルモノナカリキ然レモ仕士ハ有  
權者ノ家ノ戸ヲ破シヨト許リ蹴ル打ツ迫  
害スル詰責スル故ニ多ク晝ハ山林ニ逃ケ夜中  
自宅ニ歸リ或ハ温泉ニ逃ケ行ク等言詰曰  
此ナリ投票權ノアレハコソ欺ル苦ヲ見ルト  
嘆息スルモノ多シ

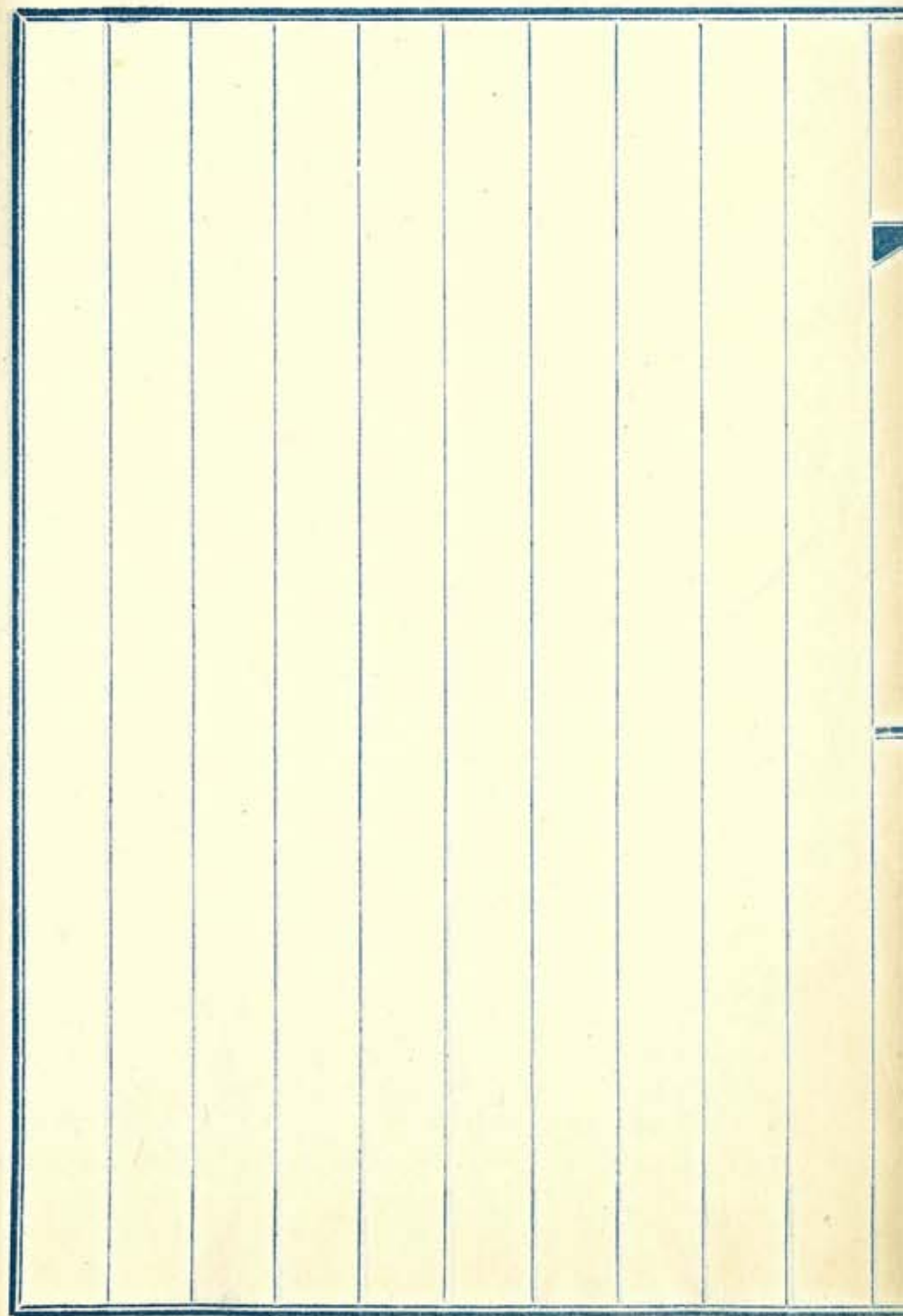
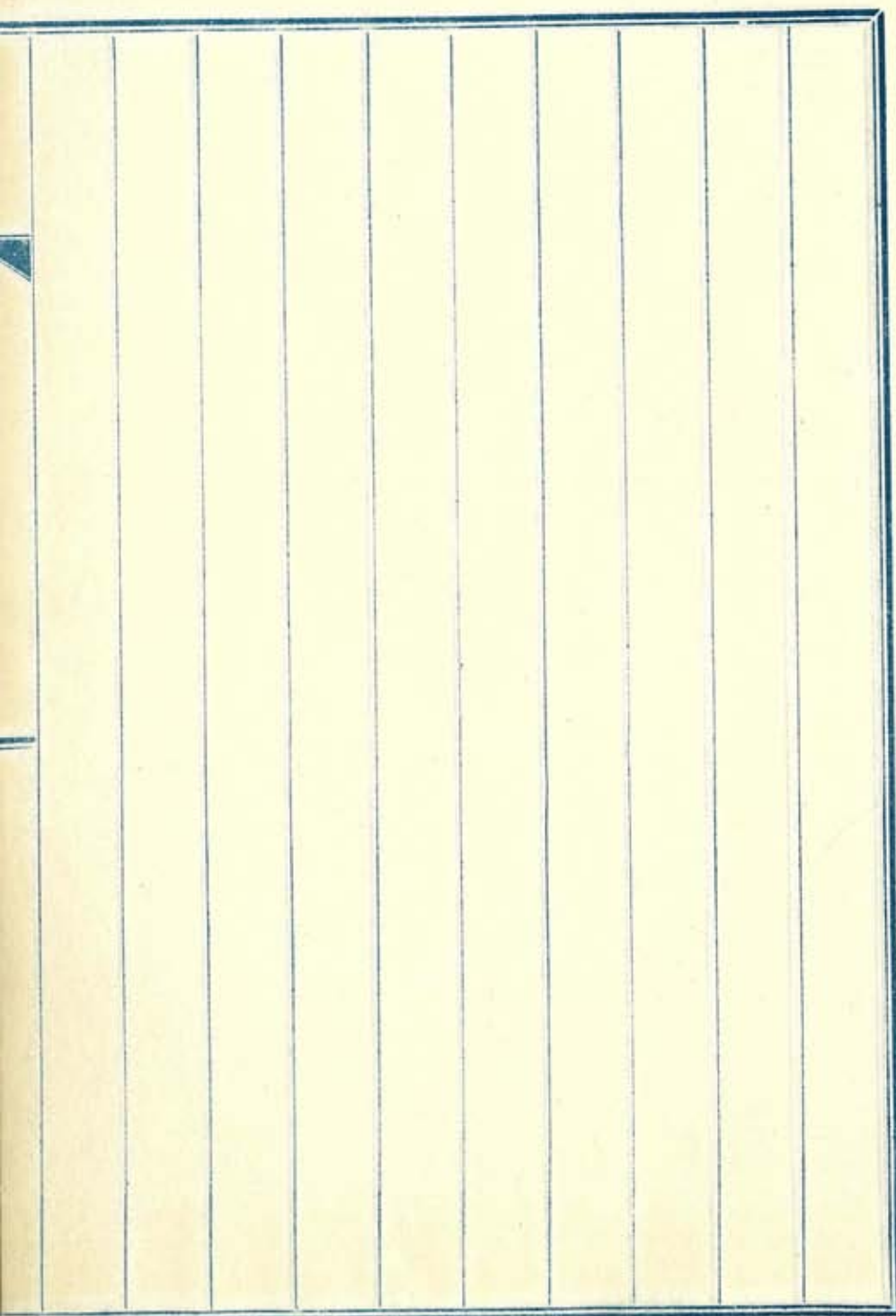




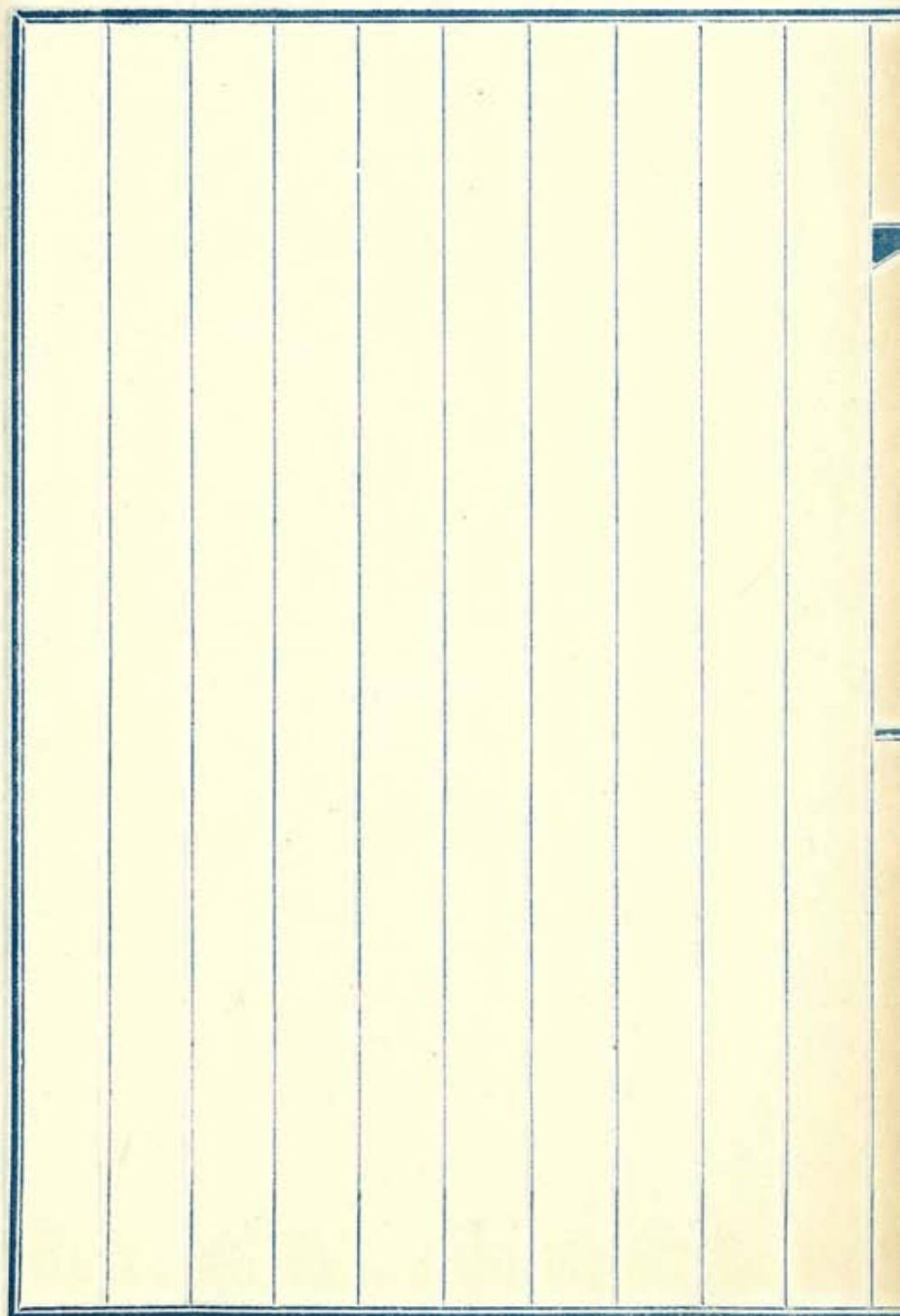
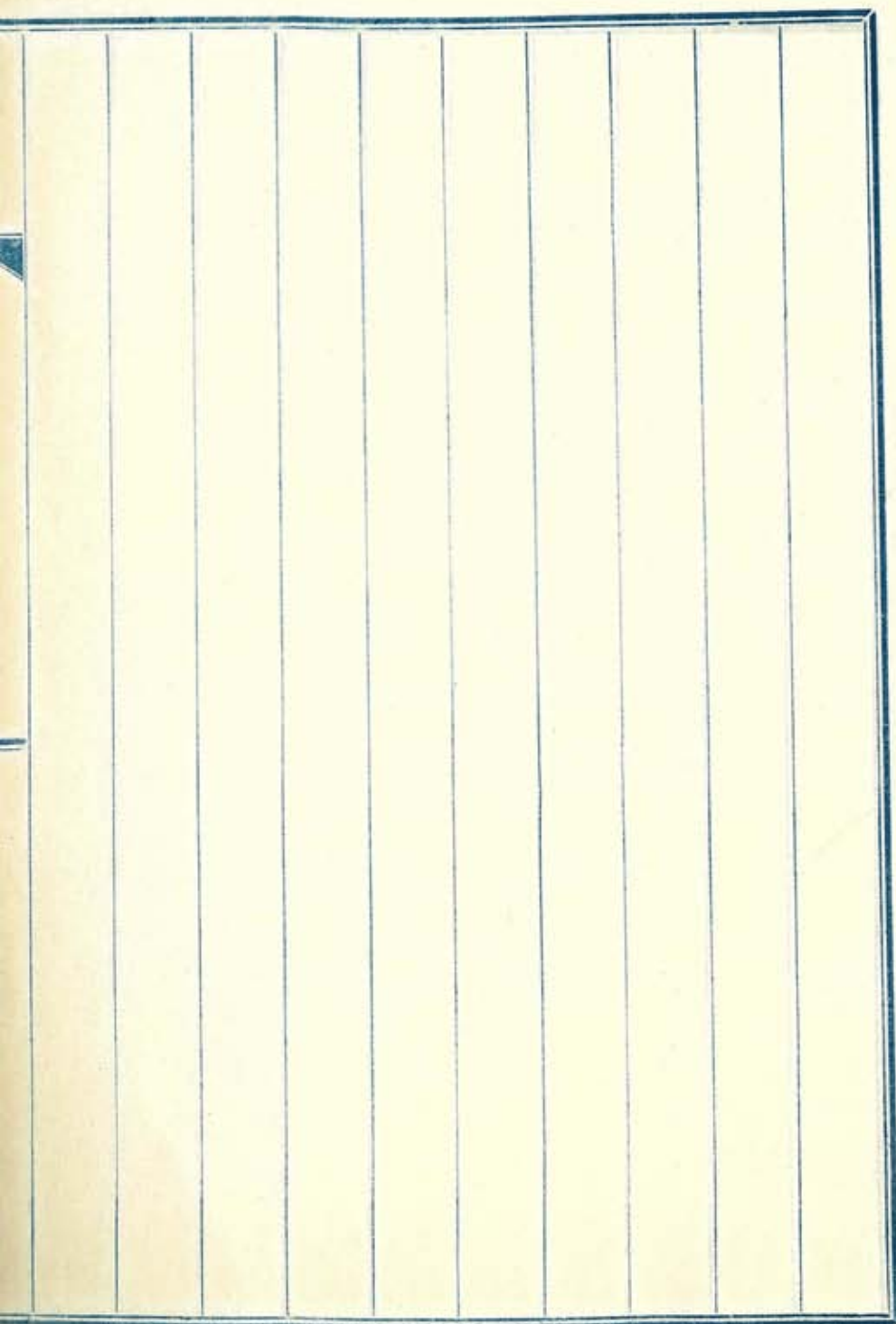




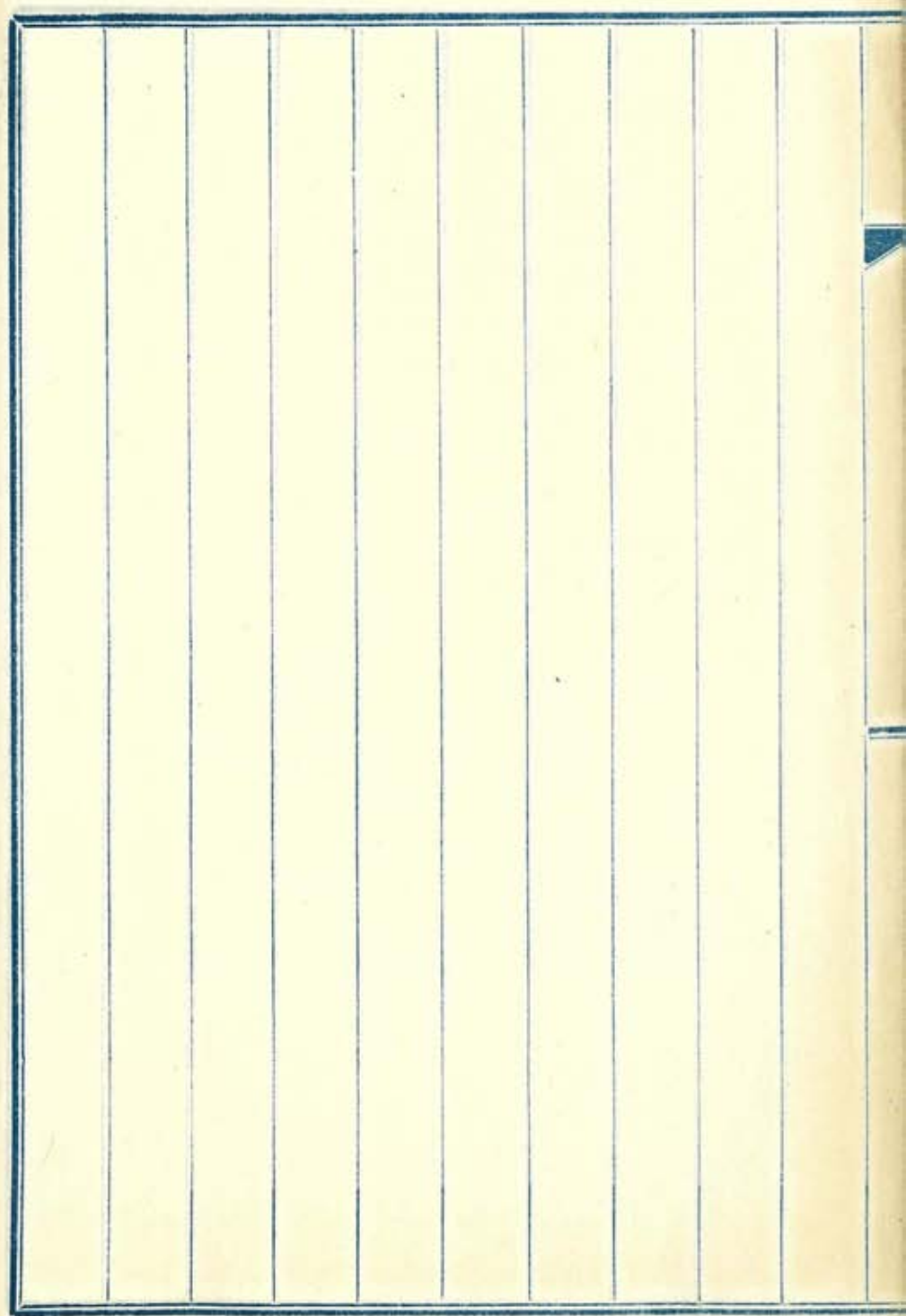
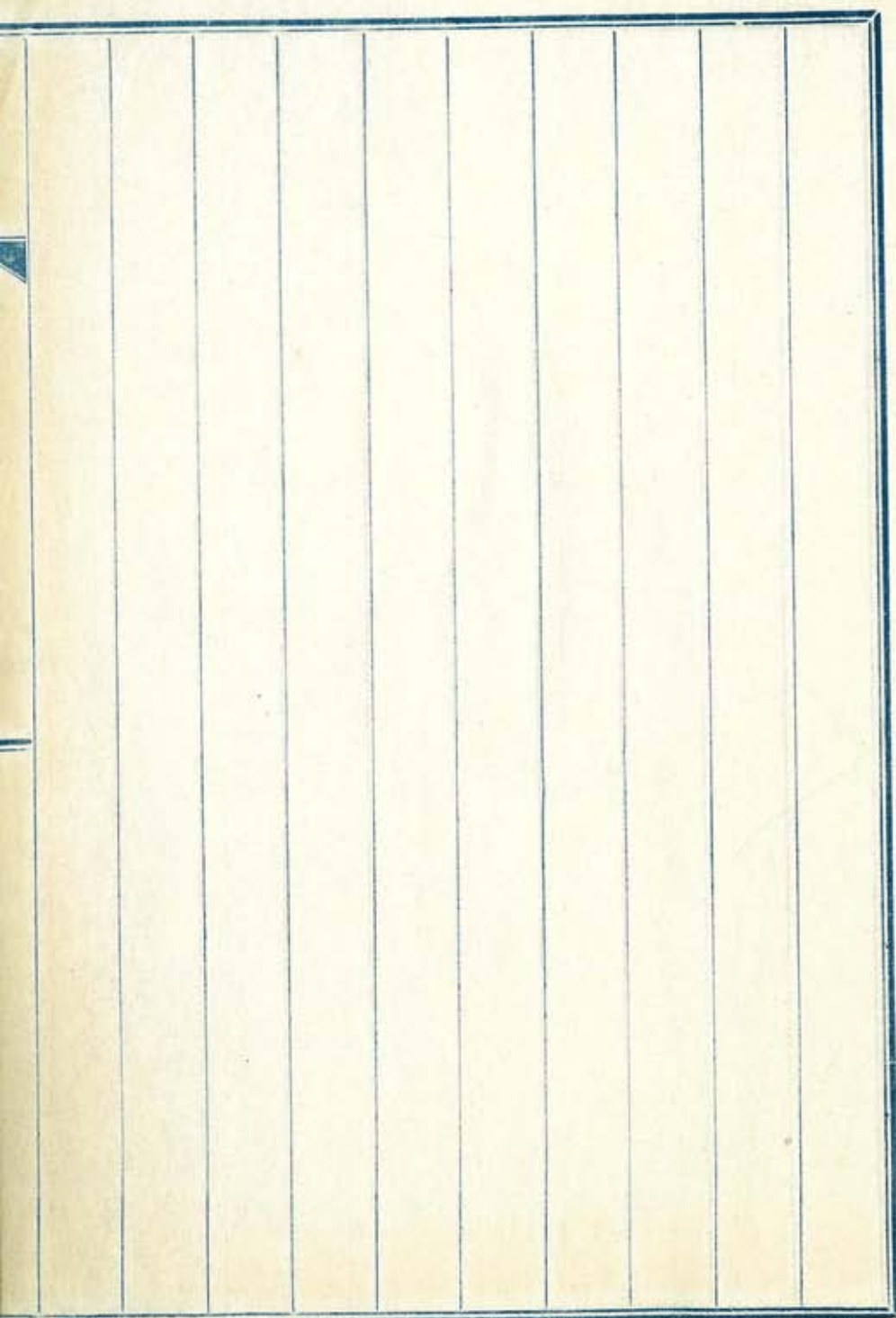














A table with 11 empty columns and a double blue border. The table is located on the right side of the page. The columns are of equal width and are separated by thin blue lines. The entire table is enclosed in a double blue border.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

55-1396



